

## 2-6. 鳥取市

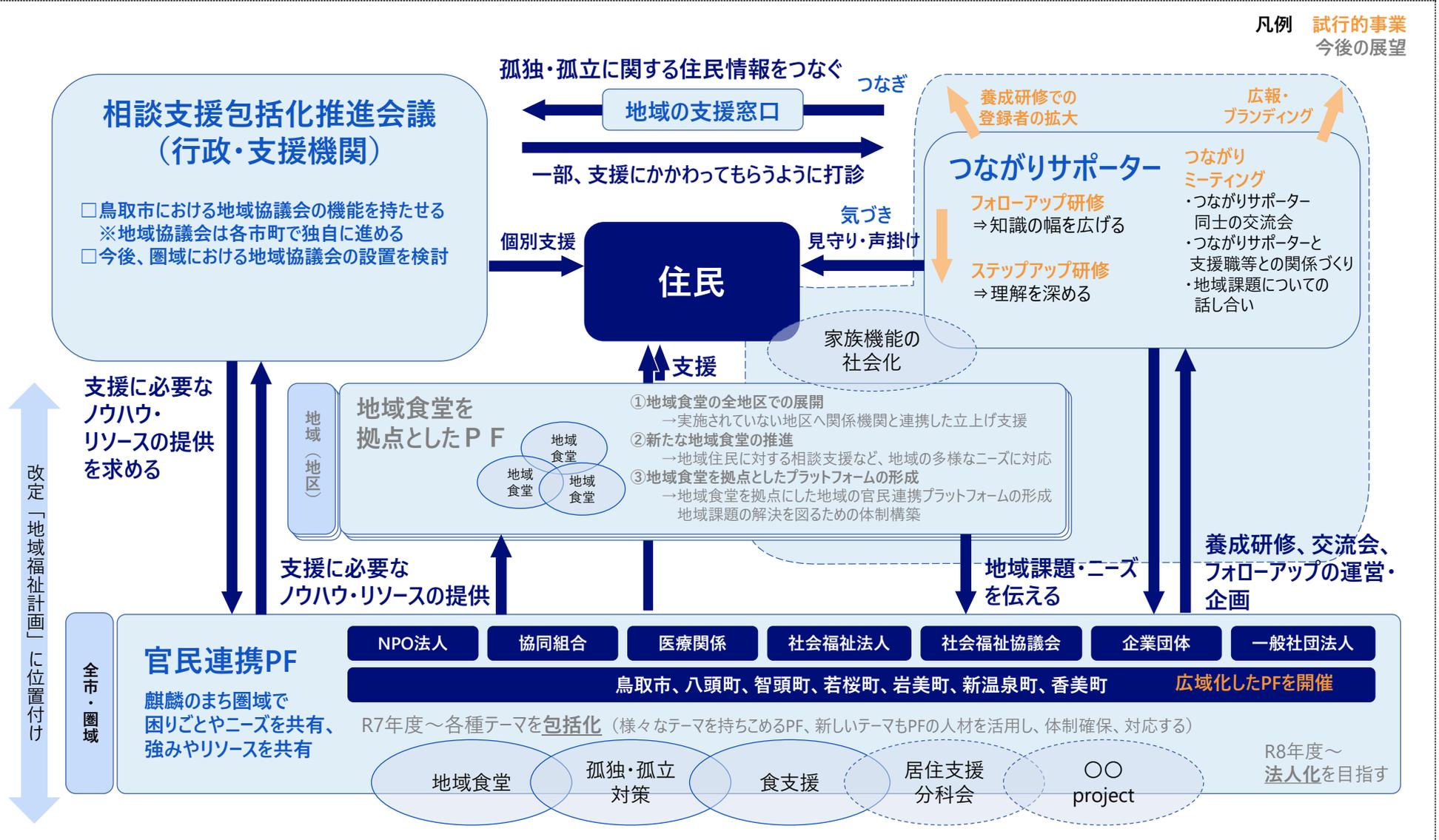
No.	6	鳥取市
-----	---	-----

1. 取組の全体像			
1. 自治体の概要			
①	自治体名	鳥取市	
②	担当部局名	鳥取市総務部人権政策局 中央人権福祉センター	
③	人口	188,465(人) <令和2年10月/国勢調査>	
④	自治体内連携	庁内連携部局(メイン)	鳥取市総務部人権政策局 中央人権福祉センター
		庁内連携内 ※会議体、情報共有	・中心となって孤独・孤立対策を推進
		庁内連携部局(メンバー)	総務部人権政策局(人権推進課)、福祉部(地域福祉課、長寿社会課、中央包括支援センター)
		庁内連携内容 ※会議体、情報共有	・関係機関(市役所内の部署、社会福祉協議会等の関係団体)との連絡調整(地域包括ケアシステム推進連絡会議)
2. 形成をめざす地方版連携PFの姿			
①	従前の取組 ※重層の取組、外部組織連携、地域コミュニティ形成等	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年に初めて地域福祉推進計画を作成、まず包括的支援体制の整備に取り掛かり、その後、重層的支援体制整備事業に移行。</li> <li>アウトリーチ等を通じた継続的支援を実施中。</li> <li>令和4年度に鳥取市孤独・孤立対策官民連携PFを構築</li> <li>令和5年度に生活圏の中核である鳥取市と周辺市町との連携の必要性から、7月に「麒麟のまち連携中枢都市圏」である鳥取県周辺4町(智頭町、八頭町、若桜町、岩美町)、兵庫県2町(新温泉町、香美町)の各町担当課に説明し賛同を得る。その後鳥取市長より連携PFの推進を表明し、10月に各町担当者会議を開催。11月2日に広域展開する方針を創生戦略会議(首長会議)で方針を決定した。</li> </ul>	
②	実現したい状態 ※構築する仕組み/支援対象の住民を取り巻く環境	今年度のゴール	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自治体での研修の開催やつながりサポーター養成研修を通じて、広域でのPFを実効的なものとする。</li> <li>鳥取市内における支援者同士のつながりを強化すること。</li> <li>つながりサポーターの拡大だけでなくつながりサポーターのステップアップを図ること。</li> </ul>
		最終的なゴール	<ul style="list-style-type: none"> <li>つながる: 困難を抱えている人が声を上げやすい地域にする。</li> <li>つなぐ: 孤独に陥りそうな方に、関わらないようにするのではなく、地域全体で心配・気配りができるような地域にする。</li> <li>場づくり: 行政の制度で支援が及ばぬ住民等に対する個別支援事例の積み上げにより、地域における孤独孤立の問題の解決の仕組化を目指す。(社会資源の開発)</li> <li>⇒上記を「麒麟のまち圏域」で実現する</li> </ul>

3. 地方版連携PFにおける連携体制			
①	地方版連携PF	立ち上げ年度	令和4年度 ※広域PFは令和6年度
		参画メンバー	NPO 法人、協同組合、社会福祉法人、医療関係組織、一般社団法人、地域食堂ネットワーク(郵便局、銀行、IT 企業)、人権教育推進協議会、鳥取市、八頭町、智頭町、若桜町、岩美町、新温泉町、香美町
		選出・打診時の工夫	孤独・孤立に関する住民接点を持つ団体を選出 麒麟のまち圏域での広域でのPFを形成する
②	地域協議会 ※特に専門性の高い支援を行う団体等で構成	立ち上げ年度	未(※代替あり)
		参画メンバー	※鳥取市では、重層的支援体制における「相談支援包括化推進会議」を地域協議会の役割として活用する。
		選出・打診時の工夫	麒麟のまち各自治体で協議会は独自に進める。各町で抱えきれない場合には、鳥取市の協議会で検討・議論することを検討。
4. PF連携による価値や工夫_考え方			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広域でのPF設立にあたって、まずは各地の温度感を高めるべく、各地域での研修の開催や支援者同士の交流会を開催し、圏域全体での支援体制の強化をする。</li> <li>・ つながりサポーターとして登録した人に対して、知識を広げたり、深めたりするとともにつながりサポーター同士で交流できる機会を提供することで、つながりサポーターとして活躍してもらえようサポートする</li> </ul>			

## 2. 連携PFイメージ

### 5. 連携PFのイメージ図



### 3. 試行的事業一覧

#### 6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

試行的事業のポイント・工夫		<ul style="list-style-type: none"> <li>鳥取市だけでなく麒麟のまち圏域でのPFの体制構築にむけて、各市町における理解促進を進める。圏域を超えて支援者がつながり、共感できる場を作る。</li> </ul>			
	事業名称	事業内容	目的/期待効果・KPI	実施時期	発注先
①	麒麟のまち 孤独・孤立 対策官民連 携PFの開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマごとにPFや会議体を作るのではなく、ゆるやかなPFを構築し、その時に合わせて、包括化されたPFや会議体のネットワークを活かして、プロジェクトや分科会として動けるような体制を検討した。</li> <li>第1回は8月22日に実施し、顔合わせおよびやりたいことを募った。参加者は各自治体の担当レベル、社協、企業・団体で23~24名程度が参加した。</li> <li>第2回は会議ではなく研修会の形式で、麒麟のまち圏域の各市町で実施した。</li> <li>【講師を呼ぶ研修会の開催】鳥取市(12/7)、智頭町(1/26)、岩美町(2/21)、新温泉町(2/28)</li> <li>(※八頭町、新温泉町、岩美町ではつながりサポーター養成研修も開催)</li> <li>第3回として、3月に今年度の振り返りおよび来年度の取り組みについて議論する予定。各市町村から多様な企業・団体等を提案、声掛けしてもらうことでPFを拡大していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>麒麟のまち圏域での一体的なPFの体制構築を行うこと</li> <li>市町の範囲を超えてリソースを共有し、一体的な支援を提供できるようにすること</li> </ul>	1回目 8月22日  2回目 12月~2月  3回目 3月14日	有識者謝金、交通費、宿泊費 (研修会4回、講師7名、50万円程度)
			成果 検証 結果	第1回 <ul style="list-style-type: none"> <li>各自治体の独自性を守りつつ連携することが必要であり、つながりサポーターを1つのキーワードとして連携できる可能性が示唆された。</li> <li>自治体によって温度感の差はあり、広域連携では都道府県等による自治体のモチベーションは重要</li> </ul> 第2回 <ul style="list-style-type: none"> <li>各地単独では開催できなかった研修会を開催することができたことが好評であった</li> <li>各地域で開催することで住民が参加しやすかったり、別の自治体職員が他地域を訪問し、交流するきっかけとなった</li> </ul>	

②	麒麟のまち 支援職 つながり 交流会	<ul style="list-style-type: none"> <li>講師に NPO 法人花 理事長 目崎 智恵子氏を呼び、講演を行った。</li> <li>さらに、支援職のかかえる困難について、支援職同士で話し、つながる機会とした。</li> <li>問題解決を目指すものではなく、共感や共有の場とした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援職に対して課題の解決だけでなく、話を聞いたり、伴走する支援もあることをインプットすること</li> <li>支援職同士が市町の垣根を越えてつながること、同じ環境課にある支援者同士が共感、情報共有できる場を提供すること</li> </ul>	11月11日(月) 13:30~15:30	謝金、交通費、宿泊費 (2万円程度)
		<b>成果検証結果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者は37名であった。20代8名、30代8名と若い世代の参加も多かった。</li> <li>参加した支援職からは「多職種の人と交流できたことで、考え方の違いを知ることができた」、「地域とのつながりを考えていきたい」等の意見が得られた。</li> <li>また、今後の行動変容につながる内容として、もっとできることがあると思った、地域とのつながりをつくりたい、といった意見が出された。</li> </ul>			
③	PFメンバーの視察研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>12月10日~11日にPFの参画団体と広島県福山市の「鞆の浦・さくらホーム」、香川県琴平町の「社会福祉法人琴平町社会福祉協議会」を視察し、意見交換を実施した。</li> <li>成果を踏まえてPFの今後の活動に資するレポートを作成した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PFメンバーの孤独・孤立対策についての理解を深めること、PFの活動方針について新たな視点を取り入れ、自ら考えてもらうこと。</li> </ul>	12月10日~11日	日ノ丸産業株式会社(33万円)
		<b>成果検証結果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者レポートを通じて、視察で新たなアイデア等を知って、今後麒麟のまちでやりたいこと、やるとよいと思うことの案が複数挙げられた。</li> <li>視察研修を通じて、PFメンバーの関係性の強化やつながりができた。</li> </ul>			
④	取組のブランディング・広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>官民連携PFやつながりサポーターの取組について、広く周知するだけでなく、地元にある良い取り組みとして愛着を持ってもらえるようブランディングを実施した。広報動画の作成と合わせて、養成研修の動画の内容も更新を行った。具体的には、広報としてどの手法が効果的なのかを把握するためにテレビ、ラジオ、SNS、チラシ、サイネージ等のメディアMIXでの広報、地域でのコラボイベントの開催等を実施し、実施後に認知度調査を実施することで効果測定を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>官民連携PF、つながりサポーターの存在を広く周知すること</li> <li>官民連携PF、つながりサポーターを地元の良い取り組みとして愛着を持ってもらうこと</li> </ul>	12月~2月	m&m.co (69万円)
		<b>成果検証結果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>広報実施後のアンケートではつながりサポーターの認知度は41%となった。どこで知ったかでは、新聞折込の効果が高い可能性が示唆された。また、TVCMの効果も確認された。</li> </ul>			

⑤	つながりサポーター養成研修の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 麒麟のまちの各町からの希望をとり、鳥取市以外の麒麟のまちにおいてもつながりサポーター養成研修の集合型研修を開催する。</li> </ul> <p>【PFの一環として各地で開催した研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>職員向け:八頭町(12/20)、民生・児童委員向け:新温泉町、岩美町</li> <li>・ つながりサポーターの展開にむけて、ニーズを受けて以下の研修について検討を実施した。</li> <li>・ 専門職向けのつながりサポーター養成研修 一般市民よりもケースを専門職の実態に即した形とする方針で検討した。10月9日(水)に検討会を開催し、求められる視点や内容を議論した。</li> <li>・ つながりサポーターフォローアップ研修 つながりサポーターとして登録した人を対象にフォローアップとして、情報の再確認や、新しい情報のインプットを行う研修を開催した。鳥取大学医学部孫大輔氏を講師に呼び、新しい知識やスキルのインプット、グループワーク、研修を行った。研修後はつながりサポーター同士の交流の場とした。</li> <li>・ つながりサポーターリーダー養成研修 つながりサポーターの事業拡大に伴い、グループワークのファシリテーター、将来的には研修そのものを運営できる人材の養成、確保にむけてリーダー養成の研修も今後検討していく予定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 麒麟での広域のPFにおいて共通のキーボードとしてつながりサポーターを育成すること。</li> <li>・ 専門職に伴走支援の情報を提供したり、つながりサポーターとして登録した人を対象に知識を広げたり、つながりサポーター養成研修の拡大にむけて人材を育成するなど、今後の展開についても検討すること。</li> </ul>	<p>【通常開催】</p> <p>5/20、6/17、7/15、8/23、9/23、10/21、11/18、12/16</p> <p>【地域での開催】</p> <p>5月～2月</p> <p>【その他出前研修】</p> <p>7月～2月</p> <p>【つながりサポーターフォローアップ研修】</p> <p>11/7</p> <p>【展開の検討】</p> <p>10/9に検討会を実施</p>	<p>—</p> <p>費用なし</p> <p>つながりサポーターフォローアップ研修は別事業で推進</p>
⑥	つながりミーティング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ つながりサポーターが今後地域を支えていくための基盤づくりとして、つながりサポーター同士、つながりサポーターと相談支援機関のつながりが必要だという声を受けて、交流の場としてつながりミーティングを開催した。</li> <li>▶河原中学校区(8/28)</li> <li>▶高草中学校区(12/14)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ つながりサポーターの研修・交流会を開催することで、つながりサポーターが地域で活動しやすい環境を整備する。</li> </ul>	<p>河原地区</p> <p>8月28日 10:00～ 12:00</p> <p>高草地区</p> <p>12月14日 13:30～ 15:30</p>	<p>—</p> <p>費用なし</p>

			<p>成果 検証 結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ つながりサポーターがどこにいるのか知ることができたという声や、つながりサポーターがつなぎ先の支援団体と顔の見える関係ができたとの声が出た。</li> <li>✓ 主体的に地域課題について話し合う場面が見られた。</li> <li>✓ 一方で、もっと多くのつながりサポーターとつながりたいといった意見も出た。</li> </ul>
--	--	--	-------------------------	---

7. 次年度以降に向けた事業等の案 ※PDCA サイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ(あれば)を列挙

- ・ 令和7年度にPFの包括化を推進する
- ・ 継続的な運営体制の構築として令和8年度に向けてPFの法人化を目指す

8. 孤独・孤立対策を公表した際の反響

- ・ 広報に関しては、令和5年度の市民意識調査では 23.3%の認知度だったところが、令和6年度の1月より実施したメディアミックスでの広報により認知度が約 20%上がった。
- ・ 広域連携に関しては、各町においても共通の課題であったなかで単町で事業化することの負担が軽減されることになり、好意的な受け止めがあったため、実施体制を構築することができた。

#### 4. 連携PFの行程および実務上の留意点

【PF立ち上げから拡大までの行程】

実務上の留意点				
連携PFの行程	過年度	令和4年度:PFの立ち上げ 令和5年度:広域PFを検討	今年度	令和6年度:PFを広域化 PFの包括化、法人化を検討

(ア)初期段階				
主担当部署の設定	R4年度	■生活困窮者支援、重層的支援体制整備事業に係る対応を行ってきた総務部人権政策局中央人権福祉センターが担当	—	—
(イ)準備段階				
地域の現状把握	—	—	R6年度 4月	■地域福祉調査において活動の認知度を調査・把握 ■支援団体やつながりサポーターの登録者ニーズを聞き取る ■広域連携にむけて、各地域の要望を訪問して聞き取り
連携PFの企画・設計	R4年度	■PFの立ち上げ、つながりサポーター、相談支援包括化会議による孤独・孤立のPFの体制を構築 ■住民が誰かとつながっている地域社会を目標として「つながりサポーター」を創設	R6年度 4月	■支援団体やつながりサポーターのニーズに応じて交流会や研修開催し、データに基づき広報にも取り組む方針とした ■広域のPFでは、全体会合と各地域でのニーズに合わせたPFを開催
初期メンバーへの声掛け	R4年度	■これまでの活動のなかで、すでに連携を進めてきた部署との連携から開始	—	—
取り組みテーマの設定	R4年度 3月～	—	R6年度 8月	■広域連携は、各地域の特性合わせたテーマを取り扱えるようにする ■つながりサポーターの養成が共通のキーワードなる
関係団体のリストアップ(庁外)	R4年度 ～	■つながりサポーターの研修や出前講座を開催することで、企業や団体にもつながりサポーターへの登録を促す	—	—
関係団体のリストアップ(庁内※広域)	R5年度 ～	■段階を踏んで、情報の事前提供と対面での対話を重視し合意形成	R6年度	■段階を踏んで、情報の事前提供と対面での対話を重視し合意形成
(ウ)設立段階				
連携PFの運営	R5年度	■つながりサポーター養成研修を開催し拡大、要望に応じて出前講座等も対応	R6年度 2月	■広域のPFでは、全体会合と各地域でのニーズに合わせたPFを開催 ■つながりミーティングでつながりサポーター同士のつながりづくりを支援
域内住民・団体への情報発信	—	—	—	■メディア MIX での広報でつながりサポーターの認知度を高める
(エ)自走段階				
地域協議会の設置	R4年度	■相談支援包括化推進会議において地域協議会の役割を担う	—	—
PFの拡大・活性化	R5年度	■広域連携にむけて、段階を踏んで、情報の事前提供と対面での対話を重視し合意形成 ■広域連携にむけて、各地域の要望を訪問して聞き取り	R7年度 ～	■様々なテーマを持ち込める体制として、PFの包括化を目指す ■PFの持続可能な体制整備としてPFの法人化の検討を進める

【それぞれの段階での留意】

(ア)初期段階		
①	主担当部署の設定	<p>■これまで、生活困窮者支援、重層的支援体制整備事業に係る対応を行ってきた総務部人権政策局中央人権福祉センターが担当</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで、生活困窮者支援、重層的支援体制整備事業に関する対応、および生活困窮事業として地域食堂ネットワークの事業推進を行ってきた総務部人権政策局中央人権福祉センターが担当した。住民が相談し易く、役所の制約にとらわれずに柔軟に対応する観点から、市役所の外に窓口(人権センター)を設置している。</li> </ul>
②	担当者の初動	<p>■広域での合意形成ために関係者に順番に話を展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度に立ち上げたPFの広域化の検討として、令和5年度に検討・調整。鳥取市で合意を得たうえで、各市町の福祉課、企画課、首長会議の順で合意形成し、その後、各地域の担当課および社協との調整を進めた。調整においては、食支援の活動を担っていることもあるため、事前に情報をインプットする、直接会って話すようにしていた。</li> </ul>
(イ)準備段階		
③	地域の現状把握	<p>■地域福祉調査において活動の認知度を調査・把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年1月に地域福祉に関する意識調査を実施し、つながりサポーターの認知度が23.3%と、地域食堂の70.4%と比較して低く、周知啓発が必要であることを把握した。</li> </ul> <p>■支援団体やつながりサポーターの登録者ニーズを聞き取る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>つながりサポーターについては、研修の内容やステップアップ、交流会等のニーズを登録者から把握した。</li> </ul> <p>■広域連携にむけて、各地域の要望を訪問して聞き取り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広域連携の事前調整の中で各地域を訪問し、広域のPFについて説明するとともに、地域課題や実施したいことなどを聞き取りした。</li> </ul>
④-1	取組テーマ決定	<p>■広域連携は、各地域の特性に合わせたテーマを取り扱えるようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広域連携では、地域特性が異なるため、画一的な取り組みは適さない。PFは多様な主体が価値観を共有する場、テーマを持ち込みそれぞれの知恵やリソースを踏まえて議論ができる場とする。</li> </ul> <p>■つながりサポーターの養成が共通のキーワードになる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>つながりサポーターの養成については、共通のキーワードとして地域横断的に取り組めるものとなった。</li> </ul>
④-2	連携PFの企画・設計	<p>■支援団体やつながりサポーターのニーズに応じて交流会や研修を開催し、データに基づき広報にも取り組む方針とした</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>支援団体や登録者のニーズを受けて、つながりサポーター同士、つながりサポーターと支援団体の交流の場としてつながりミーティングを企画</li> </ul> <p>■広域のPFでは、全体会合と各地域でのニーズに合わせたPFを開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回、第3回では、麒麟のまち圏域の市町職員や社協職員でのPF会合を開催した。第2回では、各地域で講師を呼んだ研修会やつながりサポーター養成研修を開催した。各地域のニーズに合わせた内容の研修を開催するだけでなく、各地で開催することで職員同士の交流ができた。</li> </ul>
⑤	関係団体のリストアップ 初期メンバーへの声掛け	<p>■段階を踏んで、情報の事前提供と対面での対話を重視し合意形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広域連携を推進する上では、麒麟のまち圏域で実施する方法として、各市町において、担当する福祉部局で合意形成⇒企画課で合意形成⇒首長レベルで合意形成⇒担当部局で連携を進めるという手順を進めた。孤独・孤立は地域特性に関わらず共通の課題としてとらえることができた。</li> </ul>
		<p>■つながりサポーターの研修や出前講座を開催することで、企業や団体にもつながりサポーターへの登録を促す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>つながりサポーター養成研修が1つのツールとなり、研修を受講しに来る人がいるだけでなく、企業や団体から出前講座の依頼があるため、研修を開催し、つながりサポーターへの登録を促している。</li> </ul>

(ウ) 設立段階		
⑥	域内住民・団体への 情報発信	<p>■メディア MIX での広報でつながりサポーターの認知度を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>つながりサポーターの認知度向上のため、複数の媒体によるメディア MIX での広報活動を実施。広報実施後のアンケートではつながりサポーターの認知度は 41%となった。新聞折込やTVCMの効果が高い可能性が示唆された。サイネージ等については反響が少なかった。</li> </ul>
⑦	連携PFの運営	<p>■広域のPFでは、全体会合と各地域でのニーズに合わせたPFを開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回、第3回では、麒麟のまち圏域の市町職員や社協職員でのPF会合を開催した。第2回では、各地域で講師を呼んだ研修会やつながりサポーター養成研修を開催した。各地域のニーズに合わせた内容の研修を開催するだけでなく、各地で開催することで職員同士の交流ができた。</li> </ul> <p>■つながりミーティングでつながりサポーター同士のつながりづくりを支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>つながりサポーター同士やつながりサポーターと相談支援機関がつながる必要があるといった意見を踏まえて、つながりミーティングを開催した。</li> </ul>

(エ) 自走段階		
⑧	地域協議会の設置	<p>■相談支援包括化推進会議において地域協議会の役割を担う</p> <p>鳥取市では、相談支援包括化推進会議において、対象者への個別支援を推進する。相談支援包括化推進会議では必要な機関が守秘義務をもって情報共有を行うことができる。PFから支援に必要なノウハウやリソースを提供する。</p>
⑨	PFの拡大・活性化	<p>■様々なテーマを持ち込める体制として、PFの包括化を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度をめどにPFの包括化として、PFに多様な主体が参加し、様々なテーマを持ち込めるようにする体制を整備する。</li> </ul> <p>■PFの持続可能な体制整備としてPFの法人化の検討を進める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度にPFを継続的に運営できる体制を確保するために、PFの法人化を検討し、令和8年度の法人化を目指す。</li> </ul>

## ブレイクスルー要因

### アクション/ ブレイクスルー要因

#### ■広域での連携にむけて共通で関心が持てるものとして「つながりサポーター」を活用しつつ、各地域の取組方法は尊重して設計した

- ・ 広域での連携においては、各地域で体制や、地域課題やテーマに対する温度感が異なるため、各地域の考えを尊重するようにした。
- ・ PFにおいては各地域の課題に合わせて研修会の開催等が各地域でできるようにしたことで、地域にメリットがあるだけでなく、各地のイベントにそれぞれの担当者が参加することで地域間の交流が生まれた。
- ・ 支援体制として地域協議会については、各地域の支援体制に応じて体制を構築するものとし、PFの活動とつながりサポーターの養成を連携して進めることとした。

#### ■つながりサポーター同士、つながりサポーターと相談支援機関のつながりを形成するつながりミーティングを企画

- ・ つながりサポーターが活躍するにはつながりサポーター同士、つながりサポーターと相談支援機関のつながりが必要との声を受けて、つながりミーティングを企画した
- ・ 主体的に地域課題について話し合う場面がみられた。
- ・ 当日参加者からはつながりサポーターがどこにいるかわかったり、つながりサポーターがつなぐべき相談支援機関の方の顔を知れたという声が聞かれた。一方で、さらなるつながりの強化を求める声も意見として出た。

#### ■つながりサポーターの認知度向上のためにメディア MIX での広報を実施

- ・ つながりサポーターの認知度が地域食堂等と比べて低いことを課題としてつながりサポーターの広報を様々なメディアを通じて実施した。具体的にはテレビ、ラジオ、サイネージ広告、チラシ、コラボイベントを実施。広報実施後のアンケートではつながりサポーターの認知度は 41%となった。新聞折込やTVCMの効果が高い可能性が示唆された。サイネージ等については反響が少なかった。

令和6年4月

令和6年9月～令和7年2月

令和7年3月

#### 取り組み課題

1. 広域での連携に際しては、温度感の違いがある
2. つながりサポーターが活動するにはつながりサポーター同士のつながりが必要との声が出た
3. つながりサポーター養成研修の認知度が低かった。

#### その後の変化

1. 広域でのPFを立ち上げることができた
2. つながりサポーター同士、またつながりサポーターと支援機関がつながることができた。また、さらなるニーズを取得することができた。
3. 新聞やTVCMの効果によりつながりサポーターを新たに認知してもらうことができた。

#### アクション/ブレイクスルー要因

1. 共通で関心が持てるものとして「つながりサポーター」を活用各地域の取組方法は尊重する
2. つながりミーティングを開催し、つながりサポーター同士がつながれる機会を企画した
3. メディアMIXでの広報活動を実施した。

## コラム ～地域の支援団体から見た孤独・孤立対策と連携PFの重要性～

社会福祉法人 鳥取福祉会

保育園からはじまり、老人ホーム、デイサービスなどの高齢者支援、公益事業として居宅介護支援事業、地域包括支援センター3か所の運営を担う。さらには、地域食堂ネットワークの共同代表や、デイサービス車両を活用した食材配送支援等の地域貢献も行うなど鳥取市内で幅広い支援活動を行う。

### 📍 広域で・多様なテーマで取り組んでいくためには、各団体が拡大するのではなく“連携”

- 鳥取福祉会の活動は鳥取市内で行っており、市外で活動することはあまりない。しかし、市外のケースについては、県社協等を通じて協力を仰ぎ、支援をつないでいく。包括支援センターにおいても対象外のケースが来たらまずは受け止めて、つなぐところまで業務として遂行する。個別の団体が拡大しようとせず、連携によって広がっていけばよい。

### 📍 テーマを絞らない人材の育成、体制の拡充が必要

- 今後、高齢化の進行や、つながりサポーターが発展して対象者が多く見つかるようになると、対象者の数が増えていく。また、はざまの支援のために対象の範囲や守備範囲も広がっていく。突発対応も多く、限られた人材で迅速に対処することは難しくなっていくため、テーマを絞らない人材育成や、範囲に合わせた体制の拡充が求められる。
- 鳥取福祉会では人権教育を毎年計画し、社会背景にあった教育を行っている。その一環で、つながりサポーター養成研修についても3年かけて全職員に受講してもらう計画である。つながりミーティングにも参加しており、大学生や地域の人とつながることで、多世代での考え方の違いや地域に求められる活動を把握している。

### 📍 支援をつなぐためには、顔が見える関係だけでなく、価値観を共有する必要がある

- 民生委員さんとのつながりづくりのために、民生委員の定例会に参加したり、日頃から声掛けをして、顔が見える関係を構築してきた。民生委員の方も施設につなぐのではなく、人につないでくれるので、顔が見える関係は重要である。
- 一方で、支援をつないでいくためには、顔が見えるだけでなく、価値観も共有していく必要がある。複合的な課題には一体的に取り組む必要があるが、分野や対象者が異なると、支援に介入する基準や大切にしているものの思想が異なるケースもあり、それが支援をつなぐ障壁になりうる。

### 📍 つながることで行政や地域の課題が見えてくる、その課題解決に法人として関わっていく

- 鳥取福祉会は、行政や地域とつながり、その課題を知り、法人として課題解決に関わってきたことで、多岐にわたる分野での活動に広がった。食材配送の支援も、地域の課題を知って、法人でできることを考えた結果、昼間に空いているデイサービスの車両を地域食堂の食材配達に活用できるといった地域貢献のあり方につながった。企業や法人は一定地域に貢献したいと思っていると思うが、その方法がわからないケースは多いと思う。



孤独・孤立問題の解決には  
「人と人がつながる」ことが  
そのスタートになると考えます。  
つながりを求める手がそこにあれば  
誰かがその手を握り、  
そして必要な支援へとつなぐ。  
温もりある「つながり」が  
地域社会に求められているのだと思います。  
今後も、地域の声に耳を傾け、  
福祉ニーズに取り組んで参ります。

社会福祉法人鳥取福祉会 法人本部  
企画課長兼保育課長 上根 拓也

5.自治体等との打合せ記録一覧				
No.	日時	打合せ相手団体	出席者	
			打合せ相手	NRI
1	8/21(水) 15:00-16:30	鳥取市 中央人権センター	川口様	生駒、橘、 小田、山崎
		鳥取市 人権政策局	谷口様	
		NPO 法人 地域共生とっとり	竹本様、小嶋様(鳥取市 孤独・孤立対策推進員)	
2	9/11(水) 9:00-10:30	NPO 法人 地域共生とっとり	竹本様、小嶋様(鳥取市 孤独・孤立対策推進員)	生駒、橘、 小田、山崎
3	10/18(金) 9:00-11:00	鳥取市 中央人権センター	川口様	生駒、橘、 小田、山崎
		NPO 法人 地域共生とっとり	竹本様、小嶋様(鳥取市 孤独・孤立対策推進員)	
4	11/11(月) 13:30-15:30	鳥取市 中央人権センター	川口様	橘
		NPO 法人 地域共生とっとり	竹本様、小嶋様(鳥取市 孤独・孤立対策推進員)	
5	12/7(土) 13:00-15:30	鳥取市 中央人権センター	川口様	生駒、橘
		NPO 法人 地域共生とっとり	竹本様、小嶋様(鳥取市 孤独・孤立対策推進員)	
6	12/14(土) 13:30-15:30	鳥取市 中央人権センター	川口様	橘
		NPO 法人 地域共生とっとり	竹本様、小嶋様(鳥取市 孤独・孤立対策推進員)	
6	12/27(金) 10:00-11:30	鳥取市 中央人権センター	川口様	橘
		NPO 法人 地域共生とっとり	竹本様、小嶋様(鳥取市 孤独・孤立対策推進員)	
7	2/6(木) 10:00-11:00	智頭町 福祉課	高垣様	生駒、橘
8	2/6(木) 13:00-15:00	鳥取市 中央人権センター	川口様	生駒、橘
		NPO 法人 地域共生とっとり	小嶋様(鳥取市 孤独・ 孤立対策推進員)	
		新温泉町 社会福祉協議会	平澤様	
9	2/7(金) 9:00-10:30	鳥取市 中央人権センター	川口様	生駒、橘
		NPO 法人 地域共生とっとり	小嶋様(鳥取市 孤独・ 孤立対策推進員)	
10	2/14(金) 11:00-12:00	NPO 法人 地域共生とっとり	小嶋様(鳥取市 孤独・ 孤立対策推進員)	橘
		鳥取福社会	上根様	
		鳥取市 中央人権センター	川口様	
11	2/28(金) 14:00-15:30	NPO 法人 地域共生とっとり	竹本様、小嶋様(鳥取市 孤独・孤立対策推進員)	生駒、橘
		新温泉町 社会福祉協議会	平澤様	

## 自治体による従前からの取組

### ■ つながりサポーター養成研修

#### (取組概要)

令和4年度から深刻化する「社会的孤立」に対応するため、支援の第一歩としてまずは地域の住民同士で「つながる」ことが重要となることから、地域住民との顔の見える関係づくりや見守り活動といったつながりづくりを行うサポーターの養成を行っている。

#### (実施内容)

- ・孤独・孤立に関する有識者・専門家による講義
- ・孤独・孤立ケースに関するグループワーク
- ・孤独・孤立に関する研修教材としての書籍の配布
- ・サポーターへの参加を促す PR 動画の撮影
- ・サポーターへ認定された方への修了証とバッジの配布

試行的事業	
① 麒麟のまち孤独・孤立対策官民連携PFの開催	
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>麒麟のまち孤独・孤立対策官民連携PFを開催した。</li> <li>第1回は顔合わせとして全体会合を鳥取市で開催し、第2回は各地域で講師を呼ぶ研修会を開催した。第3回として令和6年度の取組の振り返り会を3月に開催する予定である。</li> </ul>
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>麒麟のまち圏域での一体的なPFの体制構築を行うこと。</li> <li>市町の範囲を超えてリソースを共有し、一体的な支援を提供できるようにすること。</li> </ul>
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度に方針決定した広域でのPFを立ち上げ、各地域の意向を確認しつつ広域での連携をすすめた。</li> <li>テーマごとにPFや会議体を作るのではなく、柔軟なPFを構築し、必要に応じてプロジェクトや分科会として動ける体制を検討した。</li> </ul>
結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修会を開催できたことが好評で、住民が参加しやすく、自治体職員が他地域を訪問し交流するきっかけとなった。</li> <li>今後のPFの体制や取組事項の整理ができた。</li> </ul>

(実施概要)

- 昨年度広域でのPFの形成について合意形成され、今年度より麒麟のまち圏域でのPFが開催された。今後は、テーマごとにPFや会議体を作るのではなく、ゆるやかなPFを構築し、必要に応じてテーマごとにプロジェクト型で包括されたPFや会議体のネットワークを活かして動ける体制を目指す。
- 第1回のPF会合は、8月22日に実施し、顔合わせおよび今後PFで実施したいことを募った。参加者は各自治体の担当レベル、社協で23～24名程度が参加した。
  - 広域で連携する上では、各自治体の支援体制等が異なるため、各自治体の取り組み方は尊重する必要があるといった意見が出た。
  - 一方で、つながりサポーターは取り組みたいという意向が鳥取市外でもあり、広域PF全体で推進していくこととなった。

PF参画団体(28団体)

岩美町	健康福祉課 生活福祉係	一般社団法人	ひだまり
	岩美町社会福祉協議会	協同組合	鳥取県生活協同組合
若桜町	福祉保健課 福祉係	社会福祉法人	鳥取医療生活協同組合
	若桜町社会福祉協議会		鳥取市社会福祉協議会
智頭町	福祉課		鳥取福祉会
八頭町	福祉課		企業・団体
	八頭町社会福祉協議会	日本郵便株式会社	
香美町	福祉課 社会福祉係	医療関係	株式会社鳥取銀行
	香美町社会福祉協議会		株式会社アクシス
新温泉町	福祉課		株式会社つむぎ
	新温泉町社会福祉協議会		鳥取市人権教育協議会
鳥取市	総務部 人権政策局	医療関係	鳥取県東部医師会 在宅医療介護連携推進室
	福祉部 地域福祉課		
	福祉部 長寿社会課		
	福祉部 中央包括支援センター		
	人権政策局 人権推進課		

- 第2回は会議ではなく研修会の形式で、各地で実施した。鳥取市、智頭町、岩美町、新温泉町では、「つながりって!?講演会」と題して、講師を呼び講演会を開催した。その他、八頭町、新温泉町、岩美町ではつながりサポーター養成研修を開催した。
  - 広域のPFにおいて開催場所が鳥取市ばかりだと遠方で参加しにくい、各地で講演会を開催することで鳥取市民以外の住民や支援者も参加することができた。
  - 各自治体だけでは、講師を呼び開催することが難しい講演会を広域連携によって開催できたという声があった。
  - 各地で開催することで、麒麟のまち圏域の自治体職員が、鳥取市以外にも自治体を訪問する機会ができ、自治体職員同士が交流する機会にもなった。

#### 第2回のPFの開催状況

1	開催場所		日時	講師
	鳥取市	鳥取市役所 本庁舎 多目的室 2.3	12月7日 (土) 13:00~ 15:30	1) 厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課 福祉人材確保対策室長 吉田昌司氏 2) 特定非営利活動法人抱樸 希望のまち事業部 部長 中間あやみ氏 3) 鳥取市中央人権福祉センター 所長 川口寿弘氏
	開催結果	参加者 21名	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者からは、「つながりサポーターに求められていることが理解できた」、「自分から地域の人と関わることがつながりを作るうえで大事だと改めて思った」などの感想が得られた。</li> </ul>	
2	開催場所		日時	講師
	智頭町	保険・医療・ 福祉総合センター “ほのぼの”内 ひだまりホール	1月26日 (日) 10:00~ 11:30	1) 社会福祉法人 高崎市社会福祉協議会 伊藤岳央氏
	開催結果	参加者 32名	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者からは、「再犯防止の取組について知ることができた」、「他地域の具体的な事例を知ることができた」といった感想や、「断らない関係性を築いていきたい」、「我々にもできる支援があるはずだと思った」などの今後に向けた前向きな意見が得られた。</li> </ul>	
3	開催場所		日時	講師
	岩美町	岩美すこやか センター 2階 大会議室	2月21日 (金) 14:00~ 15:30	1) 美作大学 社会福祉学科 講師 中島大棋氏 2) 松江市社会福祉協議会 生活支援課 副主任 三好良知氏
	開催結果	参加者 17名 ※悪天候のため8 名欠席	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者からは、「身寄りのない方という視点について深く考えたことがなかったので、新しい気付きになった」等の感想が得られた。</li> <li>また、「社協だからできることを聞いて、経験が少ない自分でもできることからやってみようと思った」、「今後身寄りのない人が増えるため、サービスを検討していかないといけない」といった今後に向けた意見が出た。</li> </ul>	
4	開催場所		日時	講師
	新温泉町	新温泉町文化体育 館・夢ホール	2月28日 (金) 14:00~ 15:30	1) 一般社団法人コットン맘 渡邊美代子氏 2) 当事者だった少年
	開催結果	参加者 52名	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者からは「つながりがいないことで、居場所を求めてさまよっている人がいることを知った」、「田舎でも起こりうること、身近にあると感じた」などの感想が得られた。</li> <li>「支援者として自分の人との関わり方をもう一度見直さなければという気持ちになった」、「生の声を聴くことで手を差し伸べる必要性を感じた」などの意見が出た。</li> </ul>	

つながりって講演会 in 鳥取の様子



つながりって講演会 in 新温泉町の様子



(関連資料)

第2回のPFの広報チラシ(②智頭町の開催会)

令和6年度地方版孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進事業  
令和6年度麒麟のまち孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進事業

## つながって！？講演会

☆誰もが住み続けたいあたたかい地域づくり☆

地域には、様々な生きづらさを抱えながら暮らしている方がたくさんいます。今回の講演会では、特に罪を犯してしまった方々の生きづらさについて知り、講師の方の取り組みを伺いながら、「どのような支援が必要か」、「どうすれば誰もが共に暮らしていける地域にしていけるか」について一緒に考えましょう！

### ◇講師

社会福祉法人高崎市社会福祉協議会 伊藤 岳央氏



### ◇プロフィール

- 令和6年4月～現在  
地域福祉係長、なんでも福祉相談員、日常生活自立支援事業の専門員、生活福祉資金
- 一般社団法人群馬県社会福祉士会 常務理事
- 群馬県社会福祉士会リーガルソーシャルワーク委員会 委員長
- ぐんま・つなごうネット 世話人
- 高崎市障害者自立支援判定審査会 委員
- 特定非営利活動法人花 理事

☆日時：2025年1月26日(日) 10:00～11:30

☆会場：智頭町保健・医療・福祉総合センター“ほのほの”内  
ひだまりホール(智頭町大字智頭1875番地)

☆対象：関心のある方どなたでも

☆定員：100名(要予約)

※申し込み締切：1月24日(金) 17:00

☆参加費：無料

お申込・お問い合わせ先

鳥取市中央人権福祉センター 担当：[REDACTED]

電話申込：[REDACTED]

メール申込：[REDACTED]

第2回のPFの開催概要

令和6年度麒麟のまち孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進事業

12/7(土) つながりって!? 講演会 in 鳥取市 (仮称) 開催概要

【テーマ】

- ・地域共生社会の実現に向けた地域づくりを考える

【日時】12月7日(土) 13:00～15:30

【場所】鳥取役所本庁舎 多目的室 2.3 (鳥取県鳥取市幸町 71 番地)

【対象者】関心のある方どなたでも

【定員】40名

【講師依頼予定】

- ・厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課 福祉人材確保対策室長 吉田昌司氏
- ・特定非営利活動法人抱樸 希望のまち事業部 部長 中間あやみ氏

【内容案】

- ① 13:00～13:35 開会
- ② 13:35～14:15 吉田さまによる講義 (40分)
  - ・「地域共生社会の実現に向けたつながりについて考える」
- ③ 14:15～14:45 中間さまによる取組紹介 (30分)
  - ・「北九州市の取組紹介 孤独・孤立対策とまちづくり」
- ④ 14:45～14:55 川口所長による取組紹介 (10分)
  - ・「鳥取市の取組紹介 地域食堂事業を基盤にした孤独・孤立対策」
- ⑤ 14:55～15:25 吉田さま、中間さま、川口所長による鼎談 (30分)
  - ・「人と人とのつながりや地域づくりがなぜ必要なのか」
- ⑥ 15:25～15:30 閉会

(関連資料)

## 第2回のPFの依頼状

令和6年11月吉日

厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課  
福祉人材確保対策室 室長  
吉田昌司様

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-9-2  
大手町フィナンシャルシティグランキューブ  
株式会社 野村総合研究所  
コンサルティング事業本部  
社会システムコンサルティング部  
[REDACTED]

「つながりって!? 講演会 in 鳥取市 (仮称)」における登壇の依頼について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より格段のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、鳥取市では、内閣府の地方版孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進事業を実施しております。その一環として、孤独・孤立の問題について、支援者同士がつながり、孤独・孤立の理解を深めるとともに、広く住民に対し孤独・孤立対策の推進を周知していくための、「つながりって!? 講演会 in 鳥取市 (仮称)」を開催いたします。つきましては、上記フォーラムへのご登壇をお願いいたします。

### 記

- 1 「つながりって!? 講演会 in 鳥取市 (仮称)」における講演
- 2 開催日時：令和6年12月7日(土) 13:00～15:30
- 3 場所：鳥取役所本庁舎 多目的室 2.3 (鳥取県鳥取市幸町 71 番地)
- 4 謝金：-
- 5 担当者連絡先  
[REDACTED]

② 麒麟のまち支援職つながり交流会	
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援職のつながりづくりを目的に支援職つながり交流会を開催した。講師に NPO 法人花 理事長 目崎 智恵子氏を呼び、講演を行っていただき、さらに、支援職のかかえる困難について、支援職同士で話す機会とした。</li> </ul>
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援職に対して、課題解決だけでなく、話を聞いたり伴走する支援もあることを伝えること。また、支援職同士が市町の垣根を越えてつながり、共感や情報共有の場を提供すること。</li> </ul>
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援職同士がかかえる困難について話し合い、つながる機会をつくる。問題解決ではなく、共感や共有の場とする。</li> </ul>
結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加した支援職からは「多職種の人と交流できたことで、考え方の違いを知ることができた」、「地域とのつながりを考えていきたい」等の意見が得られた。</li> </ul>

(開催概要)

支援職のつながりづくりを目的に支援職つながり交流会を開催した。

講師に NPO 法人花 理事長 目崎 智恵子氏を呼び、講演を行っていただき、さらに、支援職のかかえる困難について、支援職同士で話す機会とした。つながり交流会では、問題解決を目指すものではなく、共感や共有の場として、日頃の想いや考えについて支援職同士で意見交換を実施した。

開催の様子



(開催結果)

参加者は 37 名で、20 代 8 名、30 代 8 名と若い世代の参加も多かった。アンケート結果では、以下のような意見が得られた。(一部抜粋)

他の職種との意見交換がよかった	<ul style="list-style-type: none"> <li>多職種の方の声や思いを聴けた</li> <li>色々な職種の人と話ができて良い刺激になった</li> <li>普段、関わりの少ない職種の方と話せた</li> <li>知らない話、情報を知ることができた</li> <li>色々な立場や職種で考え方も違うので良かった</li> <li>様々な分野からの参加があり、楽しかった。</li> </ul>
つながりの重要性がわかった	<ul style="list-style-type: none"> <li>連携する・つながりを作ることの大切さが理解しやすかった</li> <li>身近なところからのつながりが大切だと思った</li> <li>つながることの必要性、重要性がわかった</li> </ul>
今後に向けた抱負	<ul style="list-style-type: none"> <li>包括としてできることがもっとあると思った。</li> <li>地域とのつながりを作りたい。考えていきたい。</li> </ul>

(工夫点)

グループワークでは、テーブルに模造紙を固定し、出た意見を模造紙に書きながら対話をする。1 回目のグループワークを実施した後、席を移動し別のメンバーとの対話を行う。2 回目のグループワークでは、その場に集まった人だけでなく 1 回目のグループワークでどんなことを話したのか、模造紙を見て知ることができる。

グループワークのメンバーは、1 回目は別業種、2 回目は同業種として、別業種の支援職の想いを知ったり、同業種の支援職と共感しあったりできるように工夫をした。また、広域で開催することで、日頃あまり同じ状況に置かれた人と話すことができないが、今日は共感できる人と会えたといった声が会場から聞かれた。

令和6年度地方版孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進事業

## 麒麟のまち支援職つながり 交流会

支援職の皆様からご要望をいただき、交流会を開催いたします！  
麒麟のまち圏域で活躍する支援職の皆様とつながりをつくりましょう (^^)/

**日時** 2024年11月11日(月) 13:30～15:30

**会場** 鳥取市役所本庁舎 多目的室1 (鳥取市幸町71番地)

**対象者** 麒麟のまち圏域で働かれている支援職の皆様  
(自治体、社会福祉協議会、地域包括支援センター、隣保館、福祉事業所職員等)

**プログラム** ①講師による講演  
②ワールドカフェ方式の交流会

### ～講師プロフィール～

 **目崎智恵子 氏**

- 群馬県高崎市第1層生活支援コーディネーター
- 公益財団法人さわやか福祉財団 共生社会推進リーダー
- NPO法人花 理事長  
(コミュニティカフェ和・総合相談処花)

**経歴** H28年4月～第1層生活支援コーディネーター  
介護保険運営協議会委員  
H29年度から厚生労働省老人保健健康増進等事業に委員等で携わる。  
前職では、認定NPO法人でインフォーマル事業の責任者や生活相談支援員を歴任。

☆お申込み・お問い合わせ☆

○鳥取市中央人権福祉センター 担当：■■■■

・TEL ■■■■

・メール ■■■■

お電話かメールのどちらかでお申込みください。

③ PFメンバーの視察研修	
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>12月10日～11日にPFの参画団体と広島県福山市の「鞆の浦・さくらホーム」、香川県琴平町の「社会福祉法人琴平町社会福祉協議会」を視察し、意見交換を実施した。成果を踏まえてPFの今後の活動に資するレポートを作成した。</li> </ul>
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>PFメンバーが孤独・孤立対策についての理解を深め、新たな視点を取り入れて自ら考えること。</li> </ul>
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> <li>視察するだけでなく、意見交換会を開催するとともに、参加者に参加レポートとして今後の鳥取市および麒麟のまち圏域での取組に活かせることを検討、整理してもらった。</li> </ul>
結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>視察で新たなアイデア等を知ることができ、参加者レポートを通じて今後麒麟のまちでやりたいこと、やるとよいと思うことの案が複数挙げられた。</li> <li>視察研修を通じて、PFメンバーの関係性の強化やつながりづくりができた。</li> </ul>

(実施概要)

日 時： 令和6年12月10日(月)～11日(火)

視察先： 12月10日(月) 広島県福山市「鞆の浦・さくらホーム」

12月11日(火) 香川県琴平町「社会福祉法人琴平町社会福祉協議会」

広島県福山市「鞆の浦・さくらホーム」では、PFの取組を紹介したのちに、「鞆の浦・さくらホーム」の取組についての説明を受けた後、施設および鞆町内の見学を実施した。最後に「麒麟のまち孤独・孤立対策官民連携PFに取り入れたいこと」のテーマで意見交換を実施した。

「鞆の浦・さくらホーム」の視察の様子



香川県琴平町「社会福祉法人琴平町社会福祉協議会」でも同様に、PFの取組を紹介したのちに、「社会福祉法人琴平町社会福祉協議会」の取組を紹介いただいた。質疑の後意見交換会を開催した。

「社会福祉法人琴平町社会福祉協議会」の意見交換会の様子



意見交換会では、以下の意見が得られた。

- ✓ 地域性の違いはあるが、琴平町社会福祉協議会の広域連携の取組は麒麟のまちでも必要な視点である。それぞれの町の良さを活かせるような活動を考えていくべき。
- ✓ 住民が主体になるためには手の届く範囲で支援していくことが大事だと感じた。住民自身が自分たちの町をどう捉えるか、そこに対するアプローチができれば良い。
- ✓ どちらの視察先の町も、町全体が居場所になっており、安心感の得られる場と捉えて活動されていると感じた。鳥取市も自分が死んだ後も自分の意向が大事にされるような町にしていきたい。
- ✓ まちづくりの観点と顔の見える関係が重要だと感じた。麒麟のまちの取組でも重要にしていきたい点だと思ふ。
- ✓ 自治体はもっと現場に入り込み、地域づくりに取り組んでいくことが必要だと感じた。孤独・孤立対策も地域の文化にしていけるよう取り組んでいきたい。

また、参加者レポートでは、新たなアイデアを知ったり、意見交換をすることで、以下に示すようなテーマが今後麒麟のまちで実施するPFにおいて取組案として提起された。また、同行することでPFメンバーとの関係性を強化できた、関連事業の担い手を見つけることができた、多角的な意見交換ができたといった、視察の機会を活かすことができたという意見も得られた。

#### 視察参加者レポート(一部抜粋)

<p>今後やりたいこと、 やったらいいと思うこと</p>	<p>居場所づくり・まちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域食堂の多機能化、地域拠点としての深化</li> <li>• 利用者同士が交流できる居場所を沢山つくり孤立感を和らげるコミュニティの場所を作る。</li> <li>• 有機的な第二～三層協議体の議論と展開、中学校区での取組みの推進</li> <li>• まちづくりの観点を含めること</li> </ul> <p>住民の協働</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 各自治体において住民との協働による事業体制の再検討</li> <li>• 地域での住民の役割づくり</li> <li>• 地域全体で見守りケアができる活動</li> <li>• もっと地域に入っていくこと、行政や支援団体の職員の地域化</li> </ul> <p>終活支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 身寄りのない方の終活支援とそれをサポートする基金の設立、地域全体で見守りケアが出来るような活動</li> </ul> <p>支援者の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 麒麟のまちの社協同士の交流と協働促進</li> <li>• 地域共生の研修会</li> </ul>
<p>視察の良かった点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 鞆町でのさくらホームさんや琴平町での社協さんが取り組まれている課題には、鳥取市や麒麟のまち圏域が抱えているものと同じものも多分にあり、課題に対してのそれぞれの独自のアプローチをお聞きする度に「そんなことができるのか」と目から鱗が落ちるようで、大変有意義な視察であったと思う。</li> <li>• 視察によりPFの構成員同士の関係強化や麒麟のまちのあるべき姿・価値観について議論、共有できる意義はとても大きい。</li> <li>• 同行で関係が深まったことで、別の取組における担い手を新たに掘り起こすことにつながるなど、とてもありがたい機会となった。</li> <li>• 様々な立場からの参加ということもあり、非常に多角的(医療、隣保事業、地域食堂、自治体)視点での意見交換ができた。</li> </ul>

④ 取組のブランディング・広報	
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>官民連携PFやつながりサポーターの取組について、広く周知するだけでなく、地元にある良い取り組みとして愛着を持ってもらえるようブランディングを実施した。広報動画の作成と合わせて、養成研修の動画の内容も更新を行った。</li> <li>具体的には、広報としてどの手法が効果的なのかを把握するためにテレビ、ラジオ、SNS、チラシ、サイネージ等のメディア MIX での広報、地域でのコラボイベントの開催等を実施し、実施後に認知度調査を実施することで効果測定を行った。</li> <li>つながりサポーター拡大にむけて受講者に配布するピンバッジの制作も行った。</li> </ul>
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>官民連携PFとつながりサポーターの存在を広く周知し、地元の良い取り組みとして愛着を持ってもらうこと。</li> </ul>
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報の効果を把握するために、テレビ、ラジオ、SNS、チラシ、サイネージ等のメディア MIX での広報や地域でのコラボイベントを実施し、認知度調査で効果測定を行った。</li> </ul>
結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報実施後のアンケートではつながりサポーターの認知度は 41%となった。どこで知ったかでは、新聞折込の効果が高い可能性が示唆された。また、TVCM の効果も確認された。</li> </ul>

(実施概要)

① 広報の実施

つながりサポーターの認知度が未だ高くないことが課題となっていることをふまえ、広く麒麟のまち圏域においてつながりサポーターの認知拡大することを目的として、つながりサポーターの広報および広報に使用する素材の作成を行った。

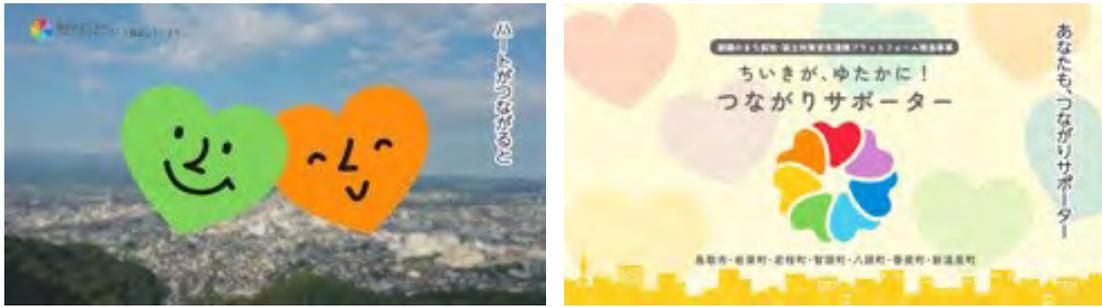
1) 動画を用いた広報

動画を用いた広報としては、テレビ、ケーブルテレビ、ラジオ、SNS、サイネージを通じて、15 秒～5分の動画を制作、放映することで広報を実施した。

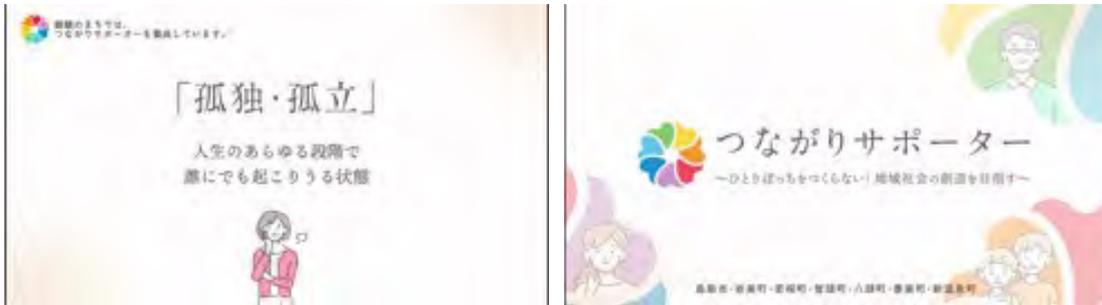
動画広報の取組実績

媒体	内容・分量	出稿先	日程
テレビ	15 秒 CM 72 本(24 本×3 局)	日本海テレビ、さんいん中央 テレビ、山陰放送	1 月 25 日(土)～2 月 22 日(土)
	1 分 インフォーマーシャル 3 本(3 本×1 局)	日本海テレビ	2 月 10 日(月)～2 月 1 2 日(水)
ケーブル	5 分 動画 ※令和 5 年度制作の動画から 抜粋して制作	ぴよんぴよんネット	2 月 14 日(金)、2 月 15 日(土)
ラジオ	深堀！インフォメーション・ト ーク！ (地域情報無料お知らせ枠)	FM 鳥取	2 月 10 日(月)、2 月 22 日(土)
SNS	YouTube での動画広報	YouTube	1 月 25 日(土)～2 月 2 2 日(土)
サイネージ	屋外サイネージでの CM 放 送	市役所周辺施設(鳥取まちビ ジョン、鳥取駅前、天神町)	1 月 25 日(土)～2 月 2 2 日(土)

## CMの広報動画



## 1分・5分版の広報動画



## サイネージの様子



## 2) 紙媒体の広報

紙媒体による広報として、新聞折込を制作し、鳥取市だけでなく麒麟のまち圏域の新聞に折り込み配布した。さらにポスターを制作し、行政や支援機関等の各拠点に貼りだして広報を実施した。

### 紙媒体の広報の取組実績

媒体	内容・分量	出稿先
新聞折込	B3 二つ折り 80,000部	日本海新聞の麒麟のまちエリアに折込を実施
ポスター	B2 250部	各拠点で貼付

### 折込チラシ



### B3 ポスター



## ② コラボイベントの開催

山陰エリアでイベントを開催している山陰三ツ星マーケットとコラボレーションでのイベントを開催した。山陰三ツ星マーケットでは、ハンドメイドの雑貨や、食べ物などの出店があり、定期的にマルシェを開催している。今回はコラボイベントとして、通常の日陰三ツ星マーケットの開催に加えて、つながりサポーターPRブースを設置し広報を実施した。さらに先着100名に粗品をプレゼントする形で、つながりサポーターに関するアンケートも実施した。

開催概要は以下の通り

催事名：あなたとつながる DAY♪with 山陰三ツ星マーケット

日 程：令和7年2月22日(土) 11:00～16:00

場 所：鳥取砂丘コナン空港

内 容：山陰三ツ星マーケット、つながりサポーターPR ブース

コラボイベントの広報



開催の様子



PRブースの様子

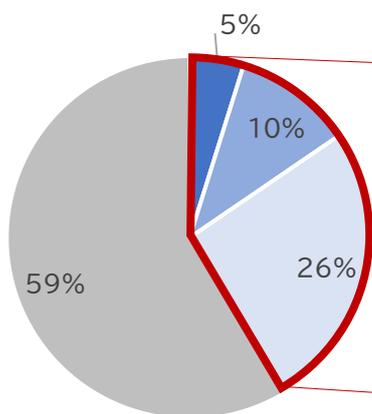


【広報の効果検証】

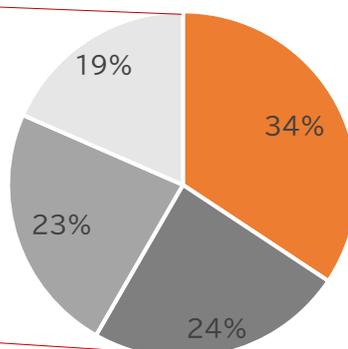
鳥取市の公式 LINE で告知を行い2月15日(土)～2月22日(土)にかけて、Google フォームでのアンケートを実施した。また、コラボイベントの会場でもアンケートを実施した。396名から回答があった。

結果として、つながりサポーターの認知度は「詳しく説明できる」、「大まかな説明ができる」、「聞いたことがある」をあわせて41%となった。令和6年1月に実施した地域福祉に関する意識調査では、地域食堂の認知度 70.4%に対して、つながりサポーターの認知度は 23.3%にとどまっていた。調査方法が異なるため単純比較はできないが、今回の調査においては、過去調査以上の認知度を観測することができた。

つながりサポーターを知っていますか？  
(N=396)



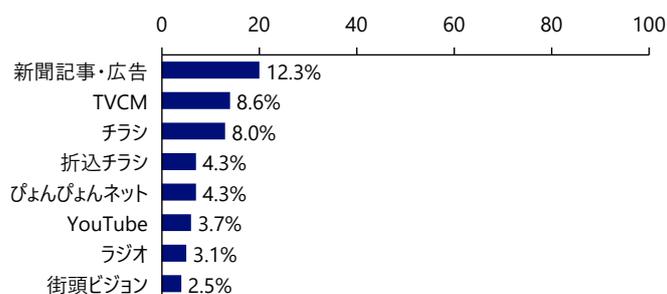
いつ頃知りましたか？  
(N=163)



- 詳しく説明できる
- 大まかな説明ができる
- 聞いたことがある
- 知らない
- 最近(R7.1~)
- 半年前(~R6.12)
- 1年前(~R6.3)
- 2年前(~R5.3)

つながりサポーターをどこで知ったのかという設問では、市報が最も多く 39.9%、次いで、養成研修、関連イベント(フォーラムや講演会)が多い結果となった。今回実施した広報では、新聞・広告が最も多く 12.3%、次いでテレビの 8.6%、チラシの 8.0%の順で多い結果となった。新聞による広報の効果が大きく見られた。ただし、新聞折込については、選択肢のうち、新聞記事・広告、チラシ、折込チラシに分散した可能性がある。

つながりサポーターを何で知りましたか？(N=163)



### 麒麟のまち孤独・孤立対策推進事業アンケート調査

麒麟のまち圏域で行っている、孤独・孤立対策としての「つながりサポーター」についてアンケートにご協力ください。  
(該当する項目に○印をお願いいたします)

#### Q1 下記についてご回答ください

① 年代	・～10代 ・20代 ・30代 ・40代 ・50代 ・60代 ・70代～
② 性別	・男性 ・女性 ・その他
③ 住まい	・鳥取市 ・岩美町 ・若桜町 ・智頭町 ・八頭町 ・兵庫県香美町 ・兵庫県新温泉町 ・その他(鳥取県内) ・その他(鳥取県外)

#### Q2 「つながりサポーター」を知っていますか？

- 1) 詳しく説明できる 2) おまかな説明ができる 3) 聞いたことはある 4) 知らない

Q2で「知らない」以外の方のみご回答ください

#### Q3-1 いつ頃、知りましたか？

- 1) 最近(令和7年1月～) 2) 半年前(～令和6年12月) 3) 1年前(～令和6年3月) 4) 2年前(～令和5年3月)

#### Q3-2 どこで知りましたか？

- ・つながりサポーター養成研修に参加 ・関連イベント(フォーラム、講演会等) ・市報  
・TVCN ・びよんびよんネット(テレトピア) ・街頭ビジョン ・YouTube 広告  
・新聞記事・広告 ・新聞折込チラシ ・チラシ ・HP ・その他( )

#### Q4 つながりサポーターになりたい、取り組みに参加したいですか？

- ・すでにしている ・なりたい ・どちらかといえばなりたい  
・どちらかといえばなりたくない ・なりたくない ・分からない

#### Q5 それぞれ、理由を教えてください【自由記入】

#### Q6 孤独孤立対策(つながりサポーター)に関するお知らせを希望されますか？

- ・既に届いている ・希望する(郵送) ・希望する(メール) ・希望しない

Q6で希望する方のみご回答ください

#### Q7 お知らせの送付先を教えてください

- 1) 既に届いている 2) 希望する(送付方法: 郵送・メール・両方) 3) 希望しない

ふりがな		〒
氏名		住所
メール アドレス		電話番号

※お知らせを希望される方は、連絡先をご記入ください。ご記入いただいた情報は、本事業以外には利用いたしません。

ご協力ありがとうございました

### ③ 動画の作成

今後継続的によりよい養成研修を開催することを目的として、映像の見直しを行い、データの更新や国の取組を最新情報に更新するなど、継続的に使用できるように修正を行った。

#### 情報を更新した研修動画



### ④ ピンバッジの作成

つながりサポーターの修了証としてバッジを 500 個作成し、つながりサポーター養成研修の受講者に配布した。

#### つながりサポーター養成研修修了証のバッジ



(参考)

⑤ つながりサポーター養成研修の開催・展開	
概要	<ul style="list-style-type: none"><li>鳥取市以外の麒麟のまちにおいて、つながりサポーター養成研修の集合型研修を開催した。 【PFの一環として各地で開催した研修】 職員向け:八頭町(12/20)、 民生委員向け:新温泉町、岩美町</li><li>つながりサポーターの展開にむけて、ニーズを受けて以下の研修について検討を実施した。 【専門職向けのつながりサポーター養成研修】 一般市民よりもケースを専門職の実態に即した形とする方針で検討した。 10月9日(水)に検討会を開催し、求められる視点や内容を議論した。 【つながりサポーターフォローアップ研修】 つながりサポーターとして登録した人を対象にフォローアップとして、情報の再確認や、新しい情報のインプットを行う研修を開催した。鳥取大学医学部孫大輔氏を講師に呼び、新しい知識やスキルのインプット、グループワーク、研修を行った。研修後はつながりサポーター同士の交流の場とした。 【つながりサポーターリーダー養成研修】 つながりサポーターの事業拡大に伴い、グループワークのファシリテーター、将来的には研修そのものを運営できる人材の養成、確保にむけてリーダー養成の研修も今後検討していく予定とした。</li></ul>
ねらい	<ul style="list-style-type: none"><li>麒麟での広域のPFにおいて共通のキーワードとしてつながりサポーターを育成すること。</li><li>専門職に伴走支援の情報を提供したり、つながりサポーターとして登録した人を対象に知識を広げたり、つながりサポーター養成研修の拡大にむけて人材を育成するなど、今後の展開についても検討すること。</li></ul>
工夫点	<ul style="list-style-type: none"><li>広域連携のきっかけとしてつながりサポーター養成研修を展開した。</li><li>今後のつながりサポーターの展開を見越して、登録した人が活躍できるように研修を実施したり、専門職向けの研修などを検討した。</li><li>つながりサポーター養成研修が今後広がっていくことを見越してリーダーの必要性を検討していく予定。</li></ul>
結果	<ul style="list-style-type: none"><li>つながりサポーターを広域連携のキーワードとして拡大するため、各地域からの要望に応じて研修を開催した。</li><li>つながりサポーター養成研修の拡大にむけて必要なことを検討し、研修の種類(専門職向け)を増やす、受講後のつながりサポーターへの研修、つながりサポーター養成研修を担う人材の育成等を今後も進める。 ・つながりサポーター養成研修については、支援職向けにより支援職に会ったケースをお題にした方が良かったといった意見があるため、研修の内容を議論した。次年度に向けて方向性を定めていく。 ・登録後のつながりサポーターが活動できるように、フォローアップ研修として、新しいことを知り、知識の幅を広げるための研修を開催した。</li><li>・今後つながりサポーター養成研修の拡大に向けて講師も担える人材の育成が必要になるため、つながりサポーターリーダー養成研修も次年度以降検討する。</li></ul>

開催の様子



(参考)

⑥ つながりミーティング	
概要	<ul style="list-style-type: none"><li>つながりサポーターが今後地域を支えていくための基盤づくりとして、つながりサポーター同士、つながりサポーターと支援団体のつながりが必要だという声を受けて、交流の場としてつながりミーティングを開催した。 ▶河原地区(8/28)、高草地区(12/14)</li></ul>
ねらい	<ul style="list-style-type: none"><li>つながりサポーターの研修・交流会を開催することで、つながりサポーターが地域で活動しやすい環境を整備する。</li></ul>
工夫点	<ul style="list-style-type: none"><li>つながりサポーターとして活躍するためには、支援者が孤独では動きづらいため、支援者同士がつながれる場を提供すること。</li><li>あわせて、つながりサポーターが支援につなぐ際に困らないようにつながりサポーターと支援機関の顔の見える関係を構築することも目指す。</li><li>地区別にグループを組むことで、より近い地域の人と知り合えるように工夫した。</li><li>つながりサポーターへの負荷が高くなりすぎないように、参加者は希望制とした。</li></ul>
結果	<ul style="list-style-type: none"><li>つながりサポーターの所在を知ることができた、つながりサポーターと支援団体の顔の見える関係性ができた等という声があった。一方で、もっと多くのつながりサポーターとつながりたいという意見もあった。</li></ul>

(実施概要)

つながりサポーターが今後地域を支えていくための基盤づくりとして、つながりサポーター同士、つながりサポーターと支援団体のつながりが必要だという声を受けて、交流の場としてつながりミーティングを開催した。試行的事業の実施前の8月28日に河原地区で一度開催しており、12月14日に高草地区で開催した。高草地区のつながりミーティングには、つながりサポーター12名と支援機関6名、その他5名が参加した。

開催の様子



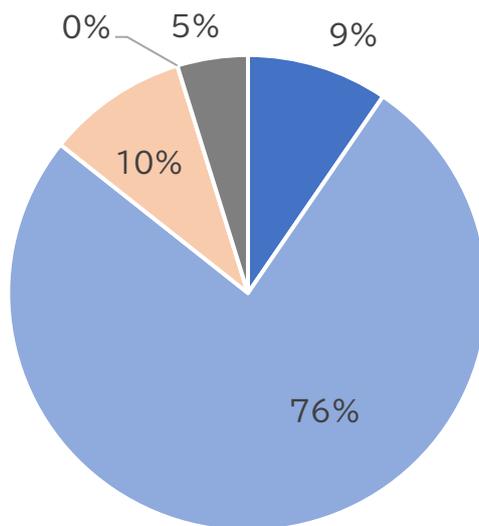
参加者アンケートでは、地域の人と知り合うことができた、支援機関を知ることができたという意見が得られた。また、つながりサポーターの役割を理解することができたという意見も得られた。

#### アンケート結果(一部抜粋)

つながりをつくることができた	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域の方と顔を合わせることで、関係機関を知ることができて良かったです。</li> <li>• この会を通じて、つながることができたのでとても良い機会でした。</li> <li>• 包括支援センター等、支援機関が何をしているのか知ることができた。</li> </ul>
つながりサポーターの活動や役割がわかった	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 活動方法がなんとなくわかったように思う。</li> <li>• つながりサポーターとして、どのように動いていけば良いのかを少し知ることができました。</li> <li>• 今後の活動の道が少し見えたような気がしました。</li> <li>• つながりサポーターの人が問題解決をしようとするのではなく、一人で抱え込まずにつなぐということを改めて意識することができた。</li> </ul>

アンケートの「今日の会で新しいつながりができたか」の質問では 9%(2名)が「できた」、76%(16人)が「少しできた」と回答した。また、継続したつながりを持ちたい、今後もこのような気があるとよいといった意見が得られた。

今日の会で新しいつながりができたか



■ できた ■ 少しできた ■ あまりできなかった ■ 全くできなかった ■ 無回答

## 2-7. 宇和島市

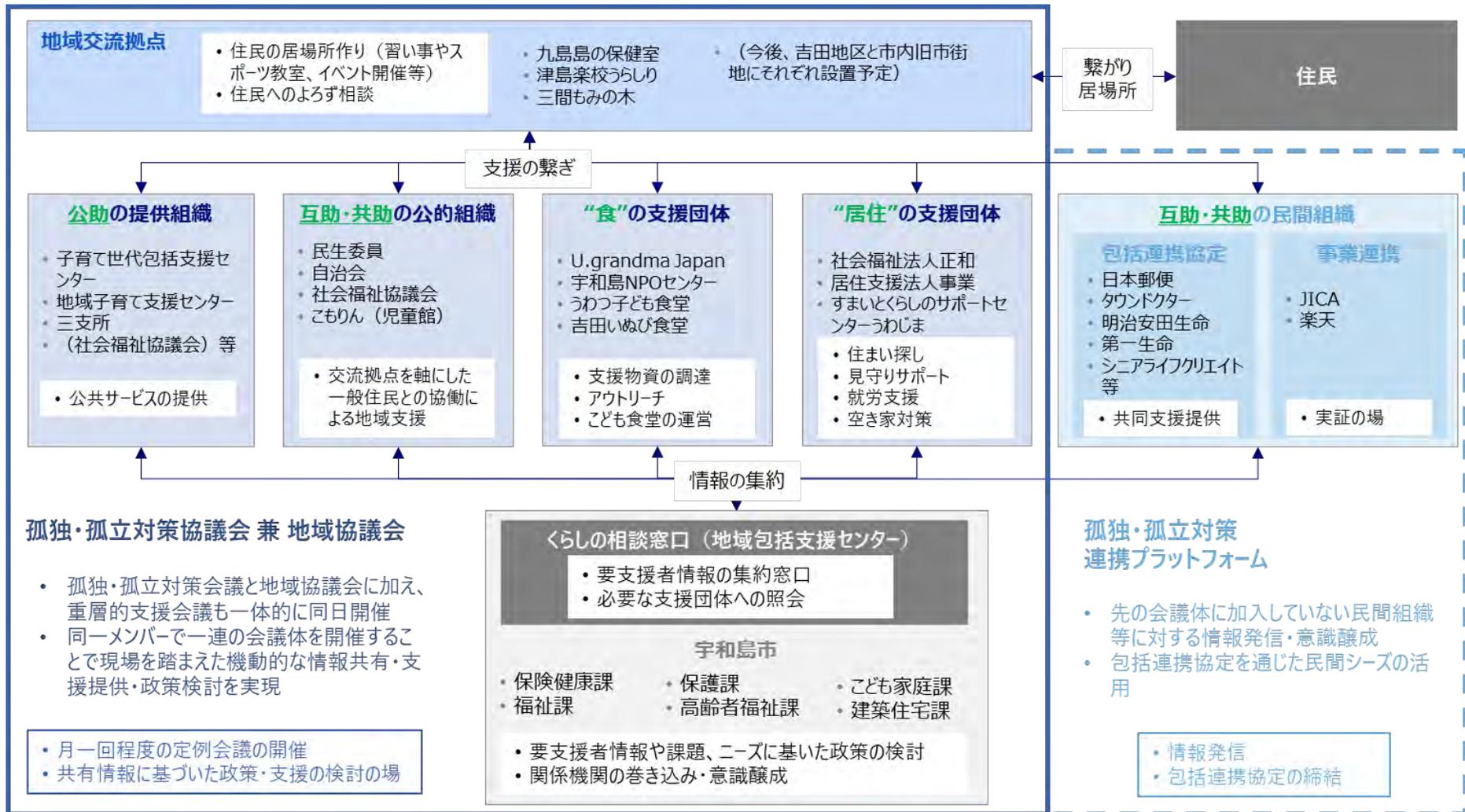
No.	7	宇和島市
-----	---	------

1. 取組の全体像			
1. 自治体の概要			
①	自治体名	宇和島市	
②	担当部局名	保健福祉部 福祉課	
③	人口	67,186(人) <令和6年10月24日現在>	
④	自治体内連携	庁内連携部局(メイン)	保健福祉部全課 (保険健康課・福祉課・高齢者福祉課・保護課・こども家庭課)
		庁内連携内 ※会議体、情報共有	・福祉課(くらしの相談窓口)および、地域包括支援センターを主軸とした重層的支援体制構築事業構成員による孤独・孤立対策の実施
		庁内連携部局(メンバー)	重層的支援会議および孤独・孤立対策会議構成員 (保健福祉部全課・建築住宅課・市民課)
		庁内連携内容 ※会議体、情報共有	・【孤独孤立対策会議】 重層的支援会議構成員と同構成員にて孤独孤立対策会議を実施しており、福祉分野にとらわれない幅広い分野での関係課との連携により、重層の取り組みを生かした柔軟な対応により、個別ケースの支援検討に至るまでを実施。
2. 形成をめざす地方版連携PFの姿			
①	従前の取組 ※重層の取組、外部組織連携、地域コミュニティ形成等	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年7月豪雨災害復興支援として、ボランティア、NPO等の中間支援機能を有した宇和島NPOセンターの設立を支援。</li> <li>◇行政、社協、NPO等と連携し、被災者支援を実施し、孤立リスクの高い被災者に対して、見守り支援を実施してきた。</li> </ul> 《これまでの経緯》 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇平成29年度に各地区の民生委員を対象とした「ひきこもり調査」</li> <li>◇平成29年度から「我が事・丸ごと」の地域づくり推進事業により、多機関協働・地域力強化事業を同時に開始。</li> <li>◇平成30年度より「地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制構築事業」を実施。</li> <li>◇令和3年度より「重層的支援体制整備事業」に移行し、体制整備を強化。</li> </ul>	
②	実現したい状態 ※構築する仕組み/支援対象の住民を取り巻く環境	今年度のゴール	<ul style="list-style-type: none"> <li>孤独・孤立を抱えている方の潜在層の把握に努める必要があることを今年度の課題と捉え、地域で活動するNPO団体等へのアンケート等を実施し、孤独孤立の実態調査を実施する。更に今年度新たに加わった居住支援法人との連携体制を完成させる。</li> </ul>
		最終的なゴール	<ul style="list-style-type: none"> <li>従前より整備してきた支援体制を基盤としつつ、食と住まいに係るアウトリーチ支援の強化により、「食と住」、人の生活における二本柱を強固なものとする。また、民間企業や住民ネットワークを活かし、新たな課題として「お一人様問題」や「終活」、「雇用」、などに係る資源の把握と開発、その支援に向け、属性を問わない多様な主体との連携体制を完備していく。</li> </ul>

3. 地方版連携PFにおける連携体制			
①	地方版連携PF (種類があれば)	立ち上げ年度	令和4年度
		参画メンバー	民間企業、NPO 法人、社会福祉法人、一般社団法人 RCF
		選出・打診時の工夫	宇和島市が目指している食支援を入り口とした孤独孤立対策において、地域に対する食の支援および関連支援団体の中間支援が可能な組織を選出。
②	地域協議会 ※特に専門性の高い支援を行う団体等で構成	立ち上げ年度	令和6年度
		参画メンバー	重層的支援会議構成員(保健福祉部全課・NPO 団体・社会福祉協議会・居住支援法人)
		選出・打診時の工夫	従来より実施している重層的支援会議の構成員を地域協議会の構成員としている。
4. PF連携による価値や工夫_考え方			
<ul style="list-style-type: none"> <li>行政⇔支援団体との情報共有や課題認識など、連携体制を図ることで目線合わせを行いながら、支援を必要とする方に適切な対応が取れるよう、効率的な支援を実施することができる。</li> <li>各支援団体が住民との接点により得られた情報を可能な範囲で相互に共有しながら、抜け漏れのない支援体制に向けて、求められる課題把握やPF機能の高度化を実現することができる。</li> <li>支援団体と地域住民とのつながりを密にすることで、課題の早期発見・早期解決、また孤独孤立の予防にも資することができ、行政・支援団体・地域住民の三位一体での支援体制が確立できる。</li> </ul>			

## 2. 連携PFイメージ

### 5. 連携PFのイメージ図



### 3. 試行的事業一覧

#### 6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

試行的事業のポイント・工夫		<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで手の届いていなかった食支援アウトリーチ手法に係る多機関連携構築と実装検討</li> </ul>			
	事業名称	事業内容	目的/期待効果・KPI	実施時期	発注先
①	食支援によるアウトリーチ手法の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>食を通じたアウトリーチ・アセスメント手法の確立</li> <li>確立したアウトリーチ・アセスメント手法の域内支援団体へのインプット</li> <li>アウトリーチ・アセスメント手法の試行的実施</li> <li>域内支援団体への実態把握調査</li> <li>食を通じたアウトリーチ手法に関する認知普及</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アウトリーチ・アセスメント手法の確立</li> <li>アウトリーチ・アセスメント手法の域内支援団体へのスキル移管</li> <li>域内支援団体の整理・課題把握</li> </ul>	1月～	U.grandma Japan (約130万円)
			<b>成果検証結果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 研修を受けた支援団体の数: 2</li> <li>✓ 試行的に手法を実施した支援団体の数: 2</li> <li>✓ 実態把握調査に回答した支援団体の数: 18</li> </ul>		
②	食支援によるアウトリーチ体制強化事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>孤独・孤立の予防/課題解決へ向けた会議体の運用支援</li> <li>食支援の実施主体への支援</li> <li>孤独・孤立対策のあり方検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>重層体制と孤独・孤立の方向性設定/論点整理</li> <li>食支援の実施</li> <li>今後の食支援の在り方/課題整理</li> </ul>	12月～	RCF (約230万円)
			<b>成果検証結果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 運営支援をした会議体の数: 2</li> </ul>		
③	居住支援の普及啓発グッズの制作	<ul style="list-style-type: none"> <li>居住支援の普及啓発に向けたグッズの制作                             <ul style="list-style-type: none"> <li>リーフレット</li> <li>ポスター</li> <li>のぼり旗</li> <li>看板</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>居住支援を認知している人・組織の増加</li> </ul>	2月～	佐川印刷 (約30万円)
			<b>成果検証結果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 制作物の数: 6種類</li> </ul>		
<b>7. 次年度以降に向けた事業等の案 ※PDCA サイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ(あれば)を列举</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども食堂連絡協議会を対象とした実態把握等の調査に基づいた食支援の拡充</li> <li>食支援団体に対する、見守り人材育成(気付きの目を持つ人の人材養成)</li> <li>居住支援の広報・啓発に向けた取り組み</li> <li>食支援と居住支援の二本立てによるアウトリーチ支援の強化</li> </ul>					
<b>8. 孤独・孤立対策を公表した際の反響</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業を通して関係者、関係団体への周知は行っているが、市民に向けての公表については、その方法なども考慮し、検討していく。</li> </ul>					

#### 4. 連携PFの行程および実務上の留意点

##### 【PF立ち上げまでの行程】

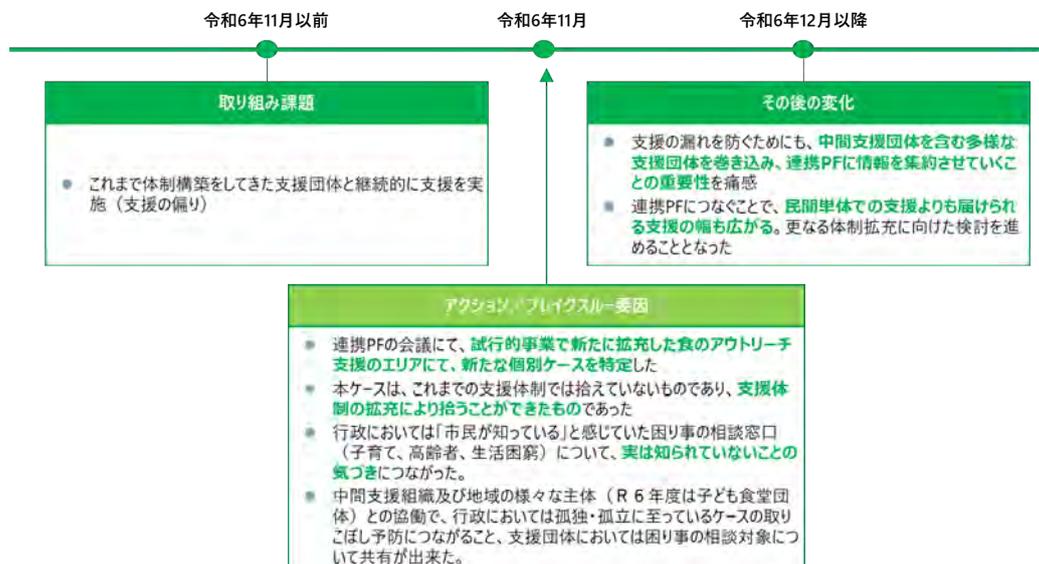
実務上の留意点				
連携PFの行程	過年度	平成29年度～:類似事業の開始 令和4年度:PFの立ち上げ	今年度	令和6年度:PFの拡充
<b>(ア)初期段階</b>				
主担当部署の設定	H29	■保健福祉部福祉課を中心としつつ、関係4課が“うちじゃない”を禁句に保健福祉部全体で孤独・孤立対策を担当	—	—
担当者の初動		■担当者の問題意識を定量化・資料化した上で、庁内で粘り強く説明	—	—
<b>(イ)準備段階</b>				
地域の現状把握	H30	■災害からの復興をきっかけに協力協定を締結していた民間企業と連携して、調査を実施	—	—
関係団体のリストアップ(庁外)	H30	■外部組織の巻き込みを目的に勉強会を開催 ■具体的な連携スキームとして、包括連携協定と共同事業を用意	R7 1月	■食を通じたアウトリーチ支援の拡充に向けて、拡充エリアを担える支援団体を探索
関係団体のリストアップ(庁内)	H30	■過年度事業を通じて、庁内巻き込みのために座談会などを開催	—	—
取組テーマ決定	R4	■過年度の類似事業でカバーできていなかった領域(食支援)を孤独・孤立対策の一環でカバー	R7 1月	■新たな支援テーマとして居住支援を設定し、普及啓発を実施
連携PFの企画・設計	R4	■過年度事業で構築されてきた重層的支援会議と一体的に設置することで、機動的な情報共有と支援提供を可能に	—	—
<b>(ウ)設立段階</b>				
域内住民・団体への情報発信	H30	■マス層への情報発信よりも顔の見える関係を通じた認知度普及を優先的に実施	—	—
連携PFの運営	R4	■重層的支援会議、孤独・孤立対策検討会、地域協議会を同じ日程で一体的に月1回開催	—	—
<b>(エ)自走段階</b>				
地域協議会の設置	—	—	R6 4月	■重層的支援会議、孤独・孤立対策検討会と同一メンバーで設置
PFの拡大・活性化	—	—	今後	■実態把握調査で特定した課題である若者の孤独をテーマに必要な体制を巻き込むことで、連携PFを拡充させていく

【それぞれの段階での留意】

(ア) 初期段階						
①	主担当部署の設定	<p>■保健福祉部福祉課を中心としつつ、関係4課が“うちじゃない”を禁句に保健福祉部全体で孤独・孤立対策を担当</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度に前身となる「我が事・丸ごと」の地域づくり推進事業を開始。支援の中で地域の個別課題は、裏で複合的につながっており、点ではなく面での支援が重要であることを実感。</li> <li>これを受け保健福祉部の関係4課が“うちじゃない”を禁句に複合課題を包括的に支援するための連携体制を構築。そのまま孤独・孤立対策も担当。</li> </ul>				
②	担当者の初動	<p>■担当者の問題意識を定量化・資料化した上で、庁内で粘り強く説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>上記の通り、我が事・丸ごとに取り組んでいた時から本テーマにおいては面的な体制整備が必要だと感じていたため、その理由と関連する定量情報を資料化し、庁内への説明を粘り強く行った。</li> <li>結果として、トップダウンで“うちじゃない”をキーワードとした庁内連携が開始した。</li> </ul>				
(イ) 準備段階						
③	地域の現状把握	<p>■災害からの復興をきっかけに協力協定を締結していた民間企業と連携して、調査を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度に福祉課内に「くらしの相談窓口」を設置し、住民からの支援ニーズを継続的に収集。</li> <li>平成30の豪雨災害を受けて、一般社団法人 RCF と協力協定を締結。RCF により、課題やニーズ・シーズの調査を定期的実施。</li> </ul>				
④ -1	取組テーマ決定	<p>■過年度の類似事業でカバーできていなかった領域(食支援、居住支援)を孤独・孤立対策の一環でカバー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過年度の我が事・丸ごとや重層事業でカバーできていなかった食を通じたアウトリーチ支援について、令和4年度の孤独・孤立対策の開始とともに着手。</li> <li>令和6年度からは、食支援のエリア拡充と、従来より課題意識の大きかった居住支援を開始。</li> </ul>				
④ -2	連携PFの 企画・設計	<p>■過年度事業で構築されてきた重層的支援会議と一体的に設置することで、機動的な情報共有と支援提供を可能に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重層事業とほぼ同一メンバーで一連の会議体を開催することで現場を踏まえた機動的な情報共有・支援提供・政策検討を実現するために、孤独・孤立対策会議と地域協議会、重層的支援会議を一体的に同日開催する形式で設計</li> </ul>				
⑤	関係団体の リストアップ 初期メンバー への声掛け	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">庁内</td> <td> <p>■過年度事業を通じて、庁内巻き込みのために座談会などを開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>宇和島市では、我が事・丸ごとや重層事業を通じて、保健福祉部の関係5課(福祉課、こども家庭課、保険健康課、高齢者福祉課、保護課)で既に連携体制を構築できていた。</li> <li>加えて、福祉の周辺領域である子育てや防災の所管部署との連携を構築している。他部の巻き込みのために担当者が職員向けの座学会を開催した。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">庁外</td> <td> <p>■外部組織の巻き込みを目的に勉強会を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>初期は、保健福祉部の関係4課がそれぞれ担当する外部機関の巻き込みを進めた。巻き込みのためには、定期的に多様なテーマで勉強会を開催しており、幅広く外部組織へ声をかけている。</li> </ul> <p>■具体的な連携スキームとして、包括連携協定と共同事業を用意</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>連携スキームとして、包括連携協定と共同事業を用意している。企業側の要望に応じて使い分けをしている。</li> </ul> </td> </tr> </table>	庁内	<p>■過年度事業を通じて、庁内巻き込みのために座談会などを開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>宇和島市では、我が事・丸ごとや重層事業を通じて、保健福祉部の関係5課(福祉課、こども家庭課、保険健康課、高齢者福祉課、保護課)で既に連携体制を構築できていた。</li> <li>加えて、福祉の周辺領域である子育てや防災の所管部署との連携を構築している。他部の巻き込みのために担当者が職員向けの座学会を開催した。</li> </ul>	庁外	<p>■外部組織の巻き込みを目的に勉強会を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>初期は、保健福祉部の関係4課がそれぞれ担当する外部機関の巻き込みを進めた。巻き込みのためには、定期的に多様なテーマで勉強会を開催しており、幅広く外部組織へ声をかけている。</li> </ul> <p>■具体的な連携スキームとして、包括連携協定と共同事業を用意</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>連携スキームとして、包括連携協定と共同事業を用意している。企業側の要望に応じて使い分けをしている。</li> </ul>
庁内	<p>■過年度事業を通じて、庁内巻き込みのために座談会などを開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>宇和島市では、我が事・丸ごとや重層事業を通じて、保健福祉部の関係5課(福祉課、こども家庭課、保険健康課、高齢者福祉課、保護課)で既に連携体制を構築できていた。</li> <li>加えて、福祉の周辺領域である子育てや防災の所管部署との連携を構築している。他部の巻き込みのために担当者が職員向けの座学会を開催した。</li> </ul>					
庁外	<p>■外部組織の巻き込みを目的に勉強会を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>初期は、保健福祉部の関係4課がそれぞれ担当する外部機関の巻き込みを進めた。巻き込みのためには、定期的に多様なテーマで勉強会を開催しており、幅広く外部組織へ声をかけている。</li> </ul> <p>■具体的な連携スキームとして、包括連携協定と共同事業を用意</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>連携スキームとして、包括連携協定と共同事業を用意している。企業側の要望に応じて使い分けをしている。</li> </ul>					
(ウ) 設立段階						
⑥	域内住民・団体への 情報発信	<p>■マス層への情報発信よりも顔の見える関係を通じた認知度普及を優先的に実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>孤独・孤立ピンポイントの発信は行っておらず、平成30年に「くらしの相談窓口」を設置した際にチラシを作成し継続的に関連施設・支援団体に配布している。</li> </ul>				

		<ul style="list-style-type: none"> <li>行政に直接相談するのは敷居が高いために、顔が見える支援団体を通じて、情報共有されることが望ましい。ただし、顔が見える関係だと言いづらいこともあるため、複数の相談ポイントを作り上げることも重要である。</li> </ul>
⑦	連携PFの運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政に直接相談するのは敷居が高いために、顔が見える支援団体を通じて、情報共有されることが望ましい。ただし、顔が見える関係だと言いづらいこともあるため、複数の相談ポイントを作り上げることも重要である。</li> </ul> <p>■重層的支援会議、孤独・孤立対策検討会、地域協議会を同じ日程で一体的に月1回開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>孤独・孤立対策検討会を月1回の頻度で開催している。</li> <li>孤独・孤立対策検討会は、重層会議との同時開催との位置づけ。</li> </ul>
<b>(工)自走段階</b>		
⑧	地域協議会の設置	<p>■重層的支援会議、孤独・孤立対策検討会と同一メンバーで設置</p> <p>重層事業、孤独・孤立対策会議とほぼ同一メンバーで一連の会議体を開催することで現場を踏まえた機動的な情報共有・支援提供・政策検討を実現するため、一体的に同日開催する形式で地域協議会を設置</p>
⑨	PFの拡大・活性化	<p>■成果を上げている食のアウトリーチ支援の対象エリア・対象層の拡充を引き続き行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度に整備した“食”のアウトリーチ支援について、令和6年度は食のアウトリーチ支援のエリア拡充を実施した。今後、未対応エリアへの支援拡充に向けて、実施体制の拡充を図る。加えて、令和6年度からはかねてより課題意識が大きく勉強会も開催していた居住に対する具体的支援の整備を進めた。今後は「おひとり様」を対象とした食、住に係る支援策の確定と、死後事務含めた新たな社会資源の創出を図る。</li> </ul>

<b>ブレイクスルー要因</b>		
	アクション/ ブレイクスルー要因	<p>■試行的事業で拡充した支援体制によって、これまでとりこぼしていたケースを発見。改めて多様な主体との連携の重要性を認識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>連携PFの会議を通じて、試行的事業で新たに拡充した食のアウトリーチ支援のエリアにて、新たな個別ケースを特定した</li> <li>本ケースは、これまでの支援体制では拾えていないものであり、支援体制の拡充により拾うことができたものであった。</li> <li>行政においては「市民が知っている」と感じていた困り事の相談窓口(子育て、高齢者、生活困窮)について、実は知られていないことの気づきにつながった。</li> <li>中間支援組織及び地域の様々な主体(令和6年度は子ども食堂団体)との協働で、行政においては孤独・孤立に至っているケースの取りこぼし予防につながることで、支援団体においては困り事の相談対象について共有が出来た。</li> </ul>



## コラム ～地域の支援団体から見た孤独・孤立対策と連携PFの重要性～

社会福祉法人 宇和島市民共済会 もみの木

- ・ 平成27年度に地方創生のためのマスターレポートで消滅可能性として示されて以降、三間地域では高齢化が進む中で支えあいのまちづくりをしなければならないという想いが強くなっていった。
- ・ 廃園になっていた三間幼稚園を拠点にすることが住民からも声が出ていた。そこで CCRC の概念に基づき、核となる交流拠点を作る必要性を踏まえ、我が事・丸ごと事業にて三間幼稚園を拠点としてもみの木の設立・運営を開始。
- ・ 介護事業だけではなく、あくまでも地域の交流拠点として、高齢者から子どもまでを対象に様々なイベントや教室、受け入れ等を実施している。

### 📍 多様なイベントや教室などを開催することで、住民とのつながりを創出

- ・ 「楽しいを中心につなぎづくり、生きがいづくり」をモットーに、三味線教室や農作、体操教室、ポッチャ大会、こども食堂など、様々なイベントを企画・運営している。
- ・ 高齢者だけを対象にするのではなく、折り紙教室などの子どもを対象とした教室も開催することで、幅広い年齢層の居場所となっている。

### 📍 地域の居場所となることで、住民の様子・変化を把握。何かあった際には、市に連携し、支援を提供する体制を構築

- ・ 住民向けには、居場所・交流の拠点として施設の運営を行っているが、裏の目的では、住民の見守りもある。例えば、いつも教室に来ている人が来なくなったなどの変化があった際には、どんな様子かを確認するようにしている。これは施設を事業者ではなく地域住民によって運営しているからこそできることである。
- ・ 万が一、有事であった際には、市に報告することで、必要な専門支援につなげられるよう連携体制を構築している。

### 📍 シームレスな情報共有と支援提供には、行政と居場所が一体的になった関係構築が重要

- ・ 上記で記載したようなシームレスな連携ができるのは、行政ともみの木が人と人との間で良好な関係を構築できているからである。
- ・ 連携PFとしての連携に限らず、まずはお互いがお互いを知るところから始めなければ、地域の個人を救うような体制は構築できない。もみの木と宇和島市も、組織の前に、個人としての信頼関係の構築を重要視している。



もみの木では、住民のつづやきを拾い上げ、専門機関へとすぐに繋ぐのではなく、住民と一緒に動き、考え、対応していくうちに、住民に変化が起こり「もみの木に行ったら」が、楽しいことも困ったこともいい感じの「ごちゃまぜ」になりました。住民の中で、ごちゃまぜが世代や健常・障害だけではなく事柄や生活そのものとして捉えられた結果、下記の3本柱を住民と共に行う場所になっています。

「ごちゃまぜの関係性の理解」→世代や障害、健常、楽しいと困ったもごちゃまぜ

「ゲストをホストに変える活動」→専門職や機関・行政だけに任せるのではなく、住民と一緒に、自ら問題に対し動いて考えてみる。

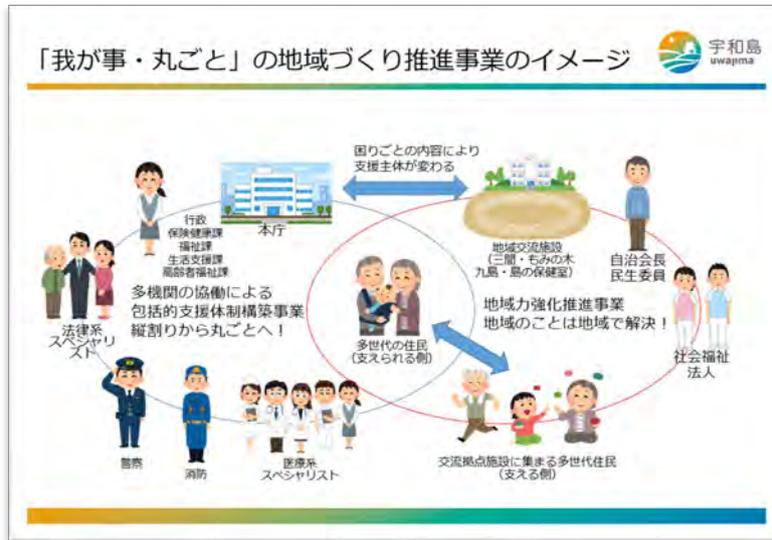
「つづやきを形にする取り組み」→楽しいことも困ったことも、小さな意見を小さなうちに対応する(大きくなるまで先送りしない)

5.自治体等との打合せ記録一覧				
No.	日時	打合せ相手団体	出席者 打合せ相手	NRI
1	8/28(水) 10:00-11:30	宇和島市 保健福祉部 福祉課	富松様、岡松様	生駒、谷本、加藤
2	9/25(水) 16:00-17:00	宇和島市 保健福祉部 福祉課	富松様、岡松様	生駒、谷本、加藤
3	11/7(木) 12:00-13:00	宇和島市 保健福祉部 福祉課	富松様、岡松様	谷本
4	12/5(木) 10:00-11:00	宇和島市 保健福祉部 福祉課	富松様、岡松様	谷本
		RCF	前田様	
5	1/15(水) 15:00-16:00	宇和島市 保健福祉部 福祉課	富松様、岡松様	谷本
		グランマ	松島様	
		RCF	前田様	
6	2/10(月) 10:00-12:00	宇和島市 保健福祉部 福祉課	富松様、岡松様	谷本
		グランマ	松島様	
		RCF	前田様	

# 自治体による従前からの取組

## ■ 平成29年度「我が事・丸ごと」の地域づくり推進事業

地域の包括的支援体制の構築として着手するきっかけとなった事業。地域の支援団体や行政、その他関係機関のネットワークを構築した。

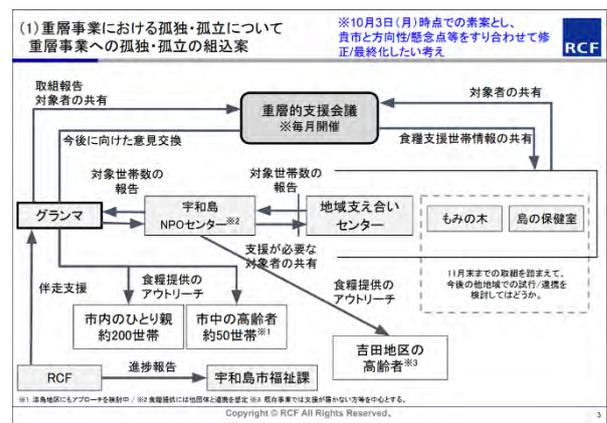
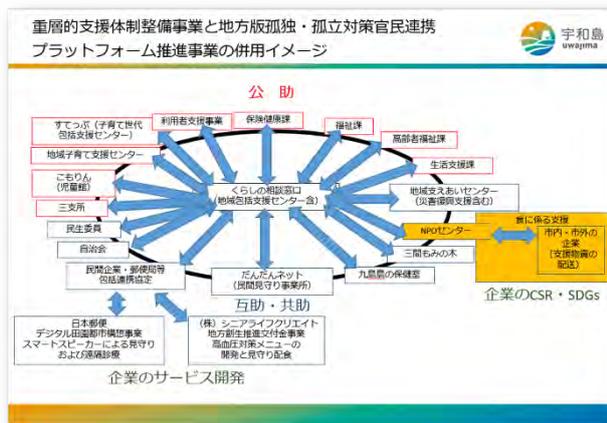


図表 「我が事・丸ごと」の地域づくり推進事業イメージ

## ■ 重層的支援体制整備事業と地方版連携PFの関係性

過年度の取組みから構築されてきたネットワーク基盤は、令和4年度においては、重層的支援体制整備事業に集約されている。よって、この既存会議体と新規に構築したい地方版連携PFとの関係性を整理することが重要であった。

図表 重層的支援体制整備事業と地方版連携PFの併用イメージ



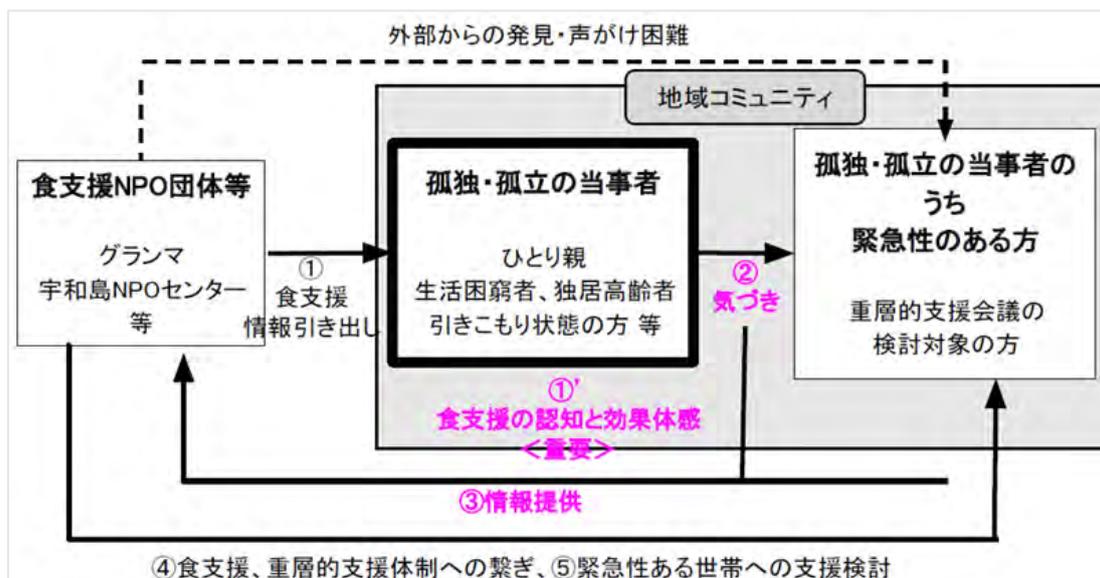
■ 令和4年度事業にて構築した食を通じたアウトリーチ支援

令和4年度事業では、食支援連携体制の構築支援を行った。具体的には、ほぼ全ての関係者が何らかの食支援実績を保有しているものの、その取組手法(パントリー型・宅配型・食堂運営型等)や頻度は大きく異なるため、互いの取組内容の紹介や意見交換を通じた価値観共有や、連携フローの詳細構築(いつどこで誰が誰へ連絡し食糧をどのように受け取るか等)、令和5年度の継続へ向けた助成金情報の収集等に取り組んだ。

その結果、①重層的支援体制から NPO 団体への食糧共有依頼、②NPO 団体から重層的支援体制への緊急性ある世帯の対応依頼という相互の連携フローを構築することができた。

項目	市中および津島 (グランマ担当)	吉田地区 (宇和島NPOセンター/地域支え合いセンター担当)
実施日	12/10・12/17・12/31	12月2日～10日
対象者	ひとり親世帯 生活困窮者世帯	吉田町単身高齢者(単身女性・単身男性) 高齢親子 高齢姉妹 高齢夫婦
対象人数	・12/10 事前申込数:140世帯/当日配布数:136世帯 1世帯⇒見守り 1世帯個別対応 ・12/17 事前申込数:80世帯/当日配布数:80世帯 ・12/31 事前申込数:47世帯/当日配布数:44世帯 1日に1世帯	事前配布予定:25世帯 31人/実施配布数:25世帯 (予定配布世帯が多少変更)
実施方法	・公式ラインに入っているひとり親世帯の220世帯に対して開催日とフードドライブのお知らせを流す。 ・スーパーのフードドライブやWeSupportFamilyから提供された食材を利用する。 ・会場にハンドマッサージブースと足湯、相談ブースを設置。職員が積極的に声をかけてマッサージしながら様子を伺い、相談事項のある方を別ブースへ誘導した。 ・こども遊び場ブースを設置した。小さなお子様連れの方が来場しやすく、また職員と長時間話しやすい環境を創出した。	・宇和島社協(支え合いセンター)と配布世帯を選定 ・宇和島社協(支え合いセンター)10世帯配布・宇和島NPOセンター15世帯配布 ・アセスメントシートとヒアリング項目を決め訪問時に傾聴する。
特記事項	フードドライブ時に少しお話を伺ったりしていたが、やはり相談支援をすることで新たな発見や信頼が生まれるため子どもを連れて来やすいイベントをして、来所率を高め、相談支援に持ち込みたい。今後きめ細かに状況を把握できるようにしたい。	・訪問後、宇和島社協(支え合いセンター)と継続支援するか検討 配布不要世帯とその理由を話し合う。 (身内が近所に住んでいる・遠方の家族が手配した食糧が定期的に配達されている・毎食外食の為食材は不要等)

図表 食のアウトリーチ支援の実施概要

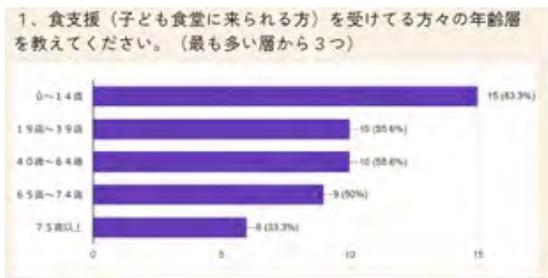


図表 重層的支援体制整備事業と地方版連携PFの併用イメージ

試行的事業	
① 食支援によるアウトリーチ手法の確立	
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>宇和島市が実施してきた食のアウトリーチ手法について、支援対象地域の拡大を見据えて、同様のアウトリーチ手法を実行できる支援団体の掘り起こしと、研修プログラムの提供による育成・試行的アウトリーチの実施を行った。</li> <li>加えて子ども食堂運営事業者の課題意識・取組内容に関する調査を実施。</li> </ul>
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>宇和島市では、孤独・孤立対策におけるアウトリーチ手法の軸が「食支援」となることを目指しており、既に多くの食支援の提供とケースの発見・支援提供につながってきた。一方でアウトリーチが提供できている地域・実施主体が限定的であることから、そのノウハウの横展開による支援対象地域の拡充を目指す。</li> </ul>
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度より食のアウトリーチ支援を実際に実施してきた特定非営利活動法人U.grandmaJapanのノウハウを研修プログラム化し、域内で横展開</li> <li>パンフレットを作成し、食のアウトリーチ手法の啓発活動を行うことで、今後の連携先の探索も実施</li> </ul>
結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>新エリアでの食のアウトリーチ支援の拡充:2つの支援団体の掘り起こしが実現し、2団体への研修プログラムの提供と試行的アウトリーチを実施</li> <li>子ども食堂運営事業者へのアンケート調査:18の運営事業者からアンケート結果を回収した</li> </ul>

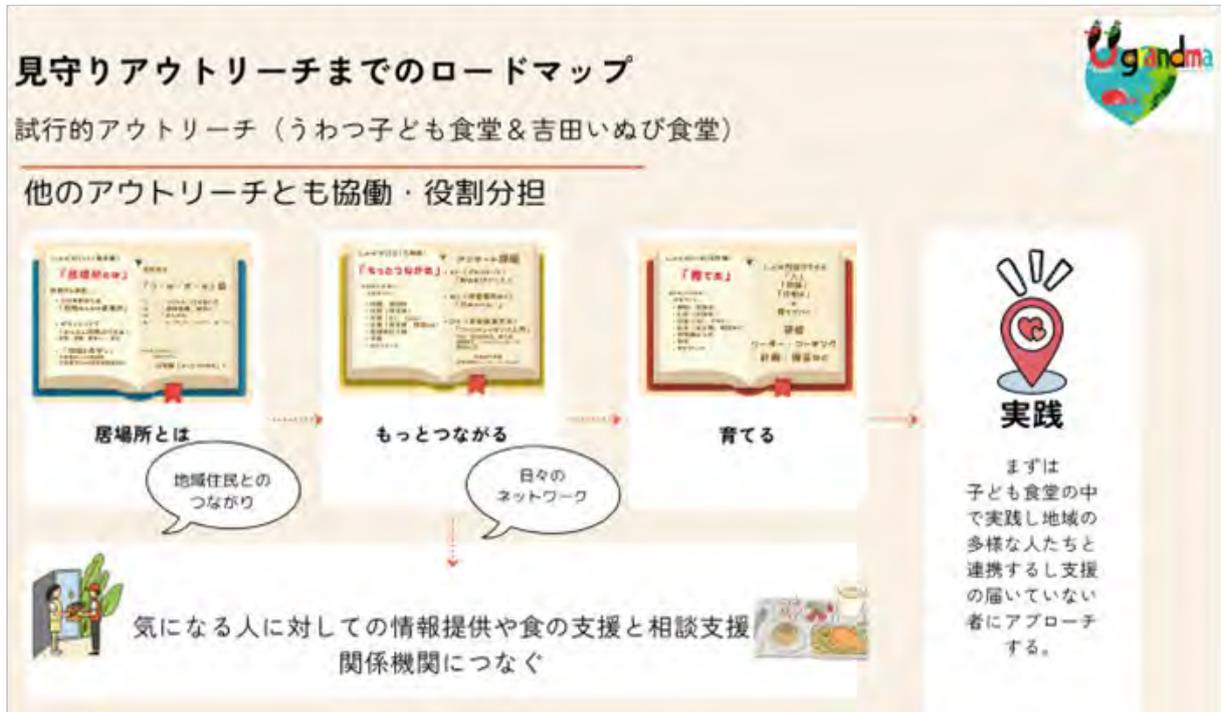
子ども食堂運営事業者へのアンケート調査

- 調査目的: グランマ以外の他団体の活動状況を把握することで、今後の食支援やその他支援の拡充に向けた参考資料とする
- 対象団体: 宇和島市子ども食堂連絡協議会に加盟する18団体
- 明らかにしたいこと: 食支援を通じて人々の困りごとの把握に積極的に取り組んでいる団体はどこか＝食支援では改善できない困りごとを抱える方々の情報を持っている、また、今後PFへ提供してくれる団体はどこか
- 調査/集計期間: 令和7年2月10日週～17日週
- 調査方法: 協議会加盟団体が参加するLINEグループへGoogleフォームを投稿してのオンライン調査



## 新エリアでの食のアウトリーチ支援の拡充

- うわつ子ども食堂(うわつ校区)と吉田いぬび食堂(吉田地区)の2つの子ども食堂運営事業者を選定し、下図の食を通じたアウトリーチ手法の研修プログラムを提供。その後、試行的にアウトリーチを実施した。
- 加えて、今後の食を通じた支援策の拡充に向けて、普及啓発となるパンフレットを作成した。



② 食支援によるアウトリーチ体制強化事業	
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度より自治体/社協/民間事業者に NPO が加わった食支援の在り方検討を開始し、令和5年度の実装後は提供件数が増え続け、また、個別ケース検討事例の発見/支援提供にも至っている。</li> </ul>
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内には日常生活に不安や悩みを感じていることが「ある」が、行政機関や NPO 等から支援を「受けていない人」が 4,000 人程度と推察され、より多くの当事者を発見/状況改善まで見守り続けるための工夫が必要である。</li> </ul>
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> <li>改善点について自治体/NPO の担当者と少人数で議論して検討会議では素案を提示することで議論/意思決定の促進を図った。</li> <li>重層等事業との連携について他事例を基に宇和島市の実情に応じた提案を行った。</li> </ul>
結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>食支援について他課の巻き込みができたため提供件数が増え、自治体や NPO とのつながりをもつ当事者の増加へつながった。</li> <li>更なる増加へ向けて市内資源の一部を把握することができた。</li> </ul>

### 食支援実績の可視化を通じたPF内の巻き込み

- 食支援の主たる利用者が福祉課に留まっていた。その背景の一つに「連携の具体イメージが湧かないからではないか」と推察し、検討会で実績(当事者の状況・自治体の依頼内容・NPO の対応等)を一覧化し、毎回共有した。また改めて自治体内で手順の周知案内を発出したことで、保護課等の積極活用につなげることができた。NPO にとっても、保護課とのやり取りを通じて生活保護等に係る知見を増やすことができたことは新たな資源となったとのこと。

自治体とNPOによる食支援連携 引き継ぎ簿(案)

※ 記載内容一式は、架空のイメージ情報です。当該事業に係る自治体やNPOの支援事例ではありません。

No.	自治体担当人様				NPO担当人様	
	受付日	年齢	性別	相談内容/生活状況	支援日	支援内容
1	08/29(Mon)	78	男性	近隣住民から「以前から住良を見かけない、ゴミを出している様子がない」と相談があり、福祉課が訪問、車庫や倉庫はしっかりしつつも、生活保護の申請意思を確認したため、対応中。	08/29(Mon)	ライフラインが止まっているため未調理で食べられる缶詰/防災食/栄養補助食品を中心に相談した。
2	09/05(Mon)	42	女性	相談者、長男、長女の3人世帯。先月精神疾患ありと診断され、今月から休職中。傷病手当を申請予定であるが、入金まで生活が苦しいとのことと相談あり。	①9/5(月) ②9/19(月) ③9/27(火)	①米を含めた食糧を提供し、次回は10月上旬取りに来ていただくことを案内した。 ②米が無くなったとことで早めに訪問され、米を含めた食糧を提供した。ひとり親世帯とのことで、葬儀体の見守り支援を案内したが、近隣の目が気になることで拒否。 ③再産米が無くなったとことで早めに訪問されたため、米の備蓄量には限りがあり月1回程度の提供を依頼したところ苦言を呈された。米以外の食糧を提供したのち、自治体福祉課XX様へ報告/相談した。 ⇒自治体から連絡あり、本人へ改めて食支援のあり方を伝えたこと、また傷病手当が給付されるため食支援は終了となることを通知された。
3	09/15(Fri)	82	男性	独居高齢者。先月及び今月(前日)入金された生活保護費を使い切ってしまう、生活に困っている。生活保護費の前振りを相談したい。	09/15(Fri)	調理不要かつ栄養価の高い食糧をお渡しした(缶詰/防災食/栄養補助食品スープ等)。
4	09/20(Wed)	88	女性	長期入院から退院したばかりで、お金も食べ物もない。兄弟へ食糧支援を依頼したがすぐには届かないため支援してもらえないかと相談あり。	09/22(Fri)	本人から簡単な調理は可能と伺ったため、レトルト品を含めた食糧を提供した。 ⇒なおお本人より兄弟とは関係良好で、今後は近隣地域への引越(成いは別居)も含めて相談中とのこと。 ※自治体福祉課XX様へ電話でも共有済。
5	09/26(Tue)	88	男性	鎌倉住宅課から電気/水道が止まっている独居高齢者がいると情報提供を受け、福祉課が同行訪問。生活保護の申請意思を確認したため保護課へ届いたが、所持金0円のため直近の食糧が必要状況。	09/27(Wed)	調理不要かつ栄養価の高い食糧をお渡しした(缶詰/防災食/栄養補助食品スープ等)。

#### 今後の孤独・孤立対策の在り方検討支援

- ・ 従前より重層事業を、本年度より居住支援事業を実施しており、棲み分けや連携の在り方が論点だった。そのため孤独・孤立対策と他事業を両立している他自治体の事例(会議の設置要綱や取組内容等)を共有し、宇和島市が転用可能な在り方を提案。現在、庁内での検討材料となっている。
- ・ またより多くの当事者を発見するためには、彼らと日常接する食支援等団体の拡張が必要と考え、U,grandma によるアンケート調査の設計支援を行った。

#### ■明らかにしたいこと

・ 食支援を通じて人々の困りごとの把握に積極的に取り組んでいる団体はどこか。  
=食支援では改善できない困りごとを抱える方々の情報を持っている、また、今後PFへ提供してくれる団体はどこか。

#### ■設問項目

※弊団体が既に把握している情報（本調査の回答と併せて一覧化をする）

- ・ 団体名
- ・ 活動している地域
- ・ パントリー設備（食糧を一定期間衛生的に保管できる環境）の有無

#### ①団体名

①食支援を受けている方々の年齢層を教えてください（最も多い層を3つ）

- 0～18歳
- 19～39歳
- 40～64歳
- 65～74歳
- 75歳以上

②食支援を受けている方々の状況を教えてください<sup>2</sup>（最も多い層を3つ）

③ 居住支援の普及啓発グッズの制作	
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>宇和島市では、孤独・孤立対策に取り組む中で、令和6年度より居住支援を開始している。具体的には、住まい探しや見守りサポート、就労支援、空き家対策などを通じて、住民の孤独・孤立に関連する情報収集を行う。については、本支援の更なる認知度普及に向けて、啓発用グッズを製作する</li> </ul>
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>居住支援に関する具体的内容や問い合わせ先等について、情報を整理し、ステークホルダー(支援団体や要支援者等)に対して可能な限り幅広く届けること</li> </ul>
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> <li>配布可能なリーフレットやパンフレットに加え、木製看板やのぼりなど、視覚的に認知度の高まる媒体も含めて幅広く成果物を製作</li> <li>多様な製作物を用意しながらも、デザインに統一感を持たせることで一体的な支援であることの意識を醸成</li> </ul>
結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>6種類の媒体でそれぞれ製作物を製作</li> </ul>

製作物

- 配布可能なリーフレットやパンフレットに加え、木製看板やのぼりなど、視覚的に認知度の高まる媒体も含めて幅広く成果物を製作

品名	数量	規格
リーフレット	2,000	A4横
パンフレット	1,000	A4
ネームプレート	2	80mm * 210mm * 3mm
木製看板	1	400mm * 80mm
大のぼり	1	1800mm * 600mm
B2ポスター	10	B2

デザイン

- 多様な製作物を用意しながらも、デザインに統一感を持たせることで一体的な支援であることの意識を醸成



## 第3章 留意点等示唆集

### 3-1. 連携PFの行程および実務上の留意点

第3章は、第2章で記述した連携PFの行程および実務上の留意点をベースに、PF形成フェーズ、および課題単位で各自治体の特筆すべき留意点・示唆の詳細を再構成した。具体的には、PR形成フェーズ、および課題単位で、各自治体の取組を集約、類型化を行った。

なお、別契約の調査研究である（関東、中国・四国1、九州地域）について弊社にて受注していることを踏まえ、本章については当該案件における自治体の取組も併せて類型化の対象とした。

## 4. 連携PFの行程および実務上の留意点

### (ア) 初期段階

#### ① 主担当部署・主担当者の設定

#### ■ 孤独・孤立対策は福祉政策の側面が強いため、これまでの重層、生活困窮者支援などを担ってきた福祉部局が担当

- 令和4年度にひきこもり調査や令和5年度にケアラー実態把握調査を設計した、重層的支援推進室が主担当。【呉市】
- 平成29年度に前身となる「我が事・丸ごと」の地域づくり推進事業を開始。支援の中で地域の個別課題は、裏で複合的につながっており、点ではなく面での支援が重要であることを実感。これを受け保健福祉部の関係5課が“うちじゃない”を禁句に複合課題を包括的に支援するための連携体制を構築。そのまま孤独・孤立対策も担当。【宇和島市】
- 孤独・孤立は分野横断的に動くため、横断的に相談を受け付けるふくし相談課が担当することとなった。【岡崎市】
- 孤独・孤立は幅広い領域に関わる内容であることから、福祉相談支援や重層的支援・地域包括ケア等の分野横断的な取組を進めてきた「健康福祉部地域共生推進課」が担当を務める。【春日井市】
- 令和5年度から、保健師が所属している3課合同で保健師のアウトリーチについて検討していた。アウトリーチ型相談支援体制は孤独・孤立支援とも通じるため、この3課合同で孤独・孤立対策にも取組むこととした。【播磨町】
- これまで、生活困窮者支援、重層的支援体制整備事業に関する対応、および生活困窮事業として地域食堂ネットワークの事業推進を行ってきた総務部人権政策局中央人権福祉センターが担当した。住民が相談し易く、役所の制約にとらわれずに柔軟に対応する観点から、市役所の外に窓口(人権センター)を設置している。【鳥取市】
- 重層担当職員が異動により、孤独・孤立対策の担当になったことをきっかけに重層と孤独・孤立対策の体制整備を検討することとなり、まずは法の通知等の情報を読み込んだ。【京都市】

#### ■ 孤独・孤立対策は、庁内各課での連携が重要であり、庁内他部署につなぐ経験が豊富な部署、コアとなる部署が担当

- 令和6年4月からの孤独・孤立対策推進法の施行に合わせ、豊田市としても改めて「孤独・孤立」を1つのテーマとしてとらえ所管課を検討した結果、「誰一人取り残さない施策の総合調整」をミッションとする、よりそい支援課に決定した。【豊田市】

#### ■ 地域とのつながりがあり、地域の現状をよく理解した部署が担当

- 地域共生、地域づくりを担う課が担当し、「孤独・孤立対策プロジェクトチーム」で方針検討【京都市】
- 孤独・孤立対策という様々な分野を巻き込む必要性のある取り組みには、横断的組織体系である地域支えあい推進部が適任であるとされた。地域支えあい推進部の中でも、広域活動を担当し、NPO法人との関わりあった地域包括ケア推進課であれば、今までの活動を生かせるだろうという期待があった。【中野区】
- 地域の外部組織との連携の必要性が高いことなどから、地域福祉課で所管すべきという判断になり、令和7年度からは地域福祉課が担当予定【福岡市】

#### ■ 制度の狭間にいる方を支援する福祉総務課が担当

- 福祉総務課は、元々福祉の制度から抜け落ちてしまう人の支援を実施する立場にあり、子ども・若者以外の孤独・孤立担当ともなっていた。【福山市】

#### ■ 庁内外ともに、「被災者支援」の文脈から派生し、孤独・孤立対策の重要性を感じた関係者・団体が取り組みを主導

- 庁内では、健康福祉政策課が火の国会議に定期参加してきた。火の国会議における民間団体との協議の中で、被災者支援から派生する「孤独・孤立」の問題意識が生まれ始めたことを受け、健康福祉政策課が令和3年度に、孤独・孤立対策に関する庁内プロジェクトチームを組成した。【熊本市】
- 民間では、KVOADが主催する「火の国会議」において、被災者支援に取り組む中でそれに派生する孤独・孤立対策の重要性を認識し、PFの組織化の構想が民間主導で芽生えた。【熊本市】

② 担当者の 初動	<p><b>■まずはやってみる、考えながら推進していく</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 答えのある問題ではないため、取組を進めつつ検討していくこととし、支援団体の話を聞く中で方向性を検討していくこととした。【京都市】</li> </ul>
	<p><b>■国の動き、他の自治体の取組事例、市内の事例等の情報収集からスタート</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ まずは孤独・孤立に関する国の動きのキャッチアップを行った。また、庁内や市内の民間団体において先進的な孤独・孤立対策の取り組みを行っている事例がないか、情報収集した。孤独・孤立対策を掲げる事例は少なかったが、人やまちをつなげるという意味で、「あらゆる行政事業は孤独・孤立対策に通じている」という考えに至った。【豊田市】</li> <li>・ 内閣府による自治体説明会資料が分かりやすく、適宜参照している。また、YouTube にアップロードされている、孤独・孤立に関する講演会や研修会、対談等の動画を視聴することで、孤独・孤立問題やその支援についての理解を深めた。【播磨町】</li> <li>・ 内閣府 HP にて他自治体の取組事例を見ていく中で、「お悩みハンドブック」の存在を知り、福岡市の抱える課題解決に資するものと考え、導入のために本事業へ応募した。【福岡市】</li> </ul>
	<p><b>■孤独・孤立の定義、PFのイメージについて庁内で共有・確認</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 春日井市の孤独・孤立対策を進めるうえで、PF参加者が主体的に参画できるよう、誰もが我が事として捉えられ、かつ自分にもできることがあると感じてもらえるよう「自分のことが話せる相手がいない状態」と定義した。定義づけにあたっては、仮説を立てたうえで対応策を検討し、行き詰まったら再度仮説を立て直す、というプロセスを繰り返し、丁寧に検討を行った。【春日井市】</li> <li>・ PFについては、支援団体同士がつながる、連携を強化するという目的や、会議体を新たに設けるものではないというイメージが職員の中で共通にあった。【岡崎市】</li> </ul>
	<p><b>■ゼロからはじめない、既存の取組を孤独・孤立対策の観点で解決していく</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相談受付において、もっと早く相談窓口を見つけられる環境が必要であるが、行政のHPは“求めるものが明確ではないと適切な窓口を見つけられない”という情報発信への課題意識があった。当初より持っていた課題を孤独・孤立対策の観点で考えた。【岡崎市】</li> </ul>
	<p><b>■現実的な支援計画を立てるために、まずは社会資源の洗い出しを行った</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「何をするか」からではなく、「何が社会資源としてあるのか」「なにが活用できるのか」から考えることで、地に足がついた計画を立てることができ、それにより他部署や社会福祉協議会からの理解や協力が得られやすくなった。【春日井市】</li> <li>・ 市地域共生推進課職員と社会福祉協議会の第2層生活支援コーディネーターとで知見を出し合い、孤独・孤立対策に資する社会資源を洗い出した。その後、洗い出した社会資源から導かれる現実的なプロセスや目指す姿を描いた。【春日井市】</li> </ul>
	<p><b>■問題意識を民間団体と共有</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 孤独・孤立が孤独死等の重大な事象につながってしまうという最悪のケースを無くしていくには、官民の強い連携が必須であり、民間団体ともその問題意識も共有していた。庁内担当者も引き続き火の国会議に参加し、民間団体との関係・連携を継続することから始めた。【熊本市】</li> </ul>
	<p><b>■担当者の問題意識を定量化・資料化した上で、庁内で粘り強く説明</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上記の通り、我が事・丸ごとに取り組んでいた時から本テーマにおいては面的な体制整備が必要だと感じていたため、その理由と関連する定量情報を資料化し、庁内への説明を粘り強く行った。結果として、トップダウンで“うちじゃない”をキーワードとした庁内連携が開始した。【宇和島市】</li> </ul>
	<p><b>■早い段階から4市での合同会議を開催し、認識合わせを実施 <span style="color: red;">(広域)</span></b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他市への声掛けはスムーズだったものの、4市での意思決定が難しかった。何度か会議を開催して、各市の課題や本事業にて成し遂げたいことについて話し合いを行った。【座間市】</li> </ul>
	<p><b>■広域での合意形成ために関係者に順番に話を展開 <span style="color: red;">(広域)</span></b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和4年度に立ち上げたPFの広域化の検討として、令和5年度に検討・調整。鳥取市で合意を得たうえで、各市町の福祉課、企画課、首長会議の順で合意形成し、その後、各地域の担当課および社協との調整を進めた。調整においては、食支援の</li> </ul>

活動を担っていることもあるため、事前に情報をインプットする、直接会って話すようにしていた。【鳥取市】

(イ)準備段階

③

地域の  
現状把握

■既存のアンケート調査等で問題の根拠となるデータを得ていた

- ・平成30年に実施した地域福祉計画策定に際する市民意識調査では、「身近に自分を支えてくれる人がいるか」という意識について調査し、「身寄りを頼ることができない人」に関する問題意識は、庁内で共有されていた。中でも、一人暮らしの高齢者は「支えてくれる身近な人」がいないという点で支援を強化する必要性を感じており、令和元年には「身寄りを頼ることができない方に対する支援のレシピ集」を作成した。【豊田市】
- ・地域福祉計画や健康増進計画、自殺対策計画等を策定するにあたってアンケート調査を実施し、町内の実態やニーズの把握を行った。孤独・孤立対策を進めることがこれらの計画の推進にもつながるため、各計画のアクションとして孤独・孤立対策を位置づけている。【播磨町】
- ・令和6年1月に地域福祉に関する意識調査を実施し、つながりサポーターの認知度が23.3%と、地域食堂の70.4%と比較して低く、周知啓発が必要であることを把握した。【鳥取市】

■住民の孤独・孤立に係る実態を把握するためのアンケート調査を実施した

- ・実態調査を企画・実施。サンプルの数を多くして、孤独を感じている人のN数を十分にとった上で分析したく、3,000名への実施決定。前々から準備していたため、初動が早く、10月中に実施することができた。呉市独自設問として、「居場所」に関する設問を設計。【呉市】
- ・行政内や支援団体における活動の位置付けや意義を説明するためには定量的なデータと市民の声が必要と考え、市民アンケートと支援団体向けアンケートおよびヒアリングの実態調査を実施した。【京都市】
- ・第5次地域福祉計画・地域福祉活動計画策定に際する市民アンケートを実施し、そこで初めて孤独・孤立に関する設問を扱った。結果として、37.4%の市民が孤独感を感じており、支援の輪が十分に行き届いていないことが分かった。孤独・孤立に関係し得る民間団体、関心を持っている団体の活動実態を把握するため、初となる「リソース調査」を今年度の試行的事業の一つとして実施した。【熊本市】

■支援団体への調査でニーズや課題、リソース調査で支援団体の活動内容の把握

- ・行政内や支援団体における活動の位置付けや意義を説明するためには定量的なデータと市民の声が必要と考え、市民アンケートと支援団体向けアンケートおよびヒアリングの実態調査を実施した。【京都市】
- ・つながりサポーターについては、研修の内容やステップアップ、交流会等のニーズを登録者から把握した。【鳥取市】
- ・リソース調査を企画・実施。調査設計にあたり、過年度他自治体が行った調査票を参考に作成。配布団体の連絡先は各市から募ることで、把握する団体の幅を広げることができた。また、資源マップの作成にもつながった。【座間市】 

■中間支援団体と連携し、地域の現状を把握

- ・当初の活動でもある程度は把握できていたが、中間支援の役割をする団体と連携することでさらに多くの課題を把握することができた。【岡崎市】

■庁内を対象にリサーチをかけ、情報収集、情報共有を図る

- ・日々各地域に密着して支援を行っている第2層生活支援コーディネーターの知見を活かし、主に高齢者分野の現状把握を実施した。行政計画には各地域の特徴が記載されているため、計画策定を担当した市職員の協力を得て、各地の特性を把握した。また、地域を区分けした際の担当者も各地の特性を把握しているため、知見を活用した。【春日井市】

■有識者と調査手法を相談し、連携したフィールドワークを実施

- ・実態調査を実施するにあたり、有識者に手法を相談した。有識者から、フィールドワークを行い、市民の実態、特に市民一人ひとりがもつ周辺社会を把握し、共有する手法を提案してもらい、有識者と共に実施した。【岡崎市】

■相談窓口を通じた問い合わせを通じて支援ニーズを把握

- ・平成30年度に福祉課内に「くらしの相談窓口」を設置し、住民からの支援ニーズを継続的に収集。【宇和島市】

■広域連携にむけて、各地域の要望を訪問して聞き取り **広域**

- ・ 広域連携の事前調整の中で各地域を訪問し、広域のPFについて説明するとともに、地域課題や実施したいことなどを聞き取りした。【鳥取市】

④ -1 取組 テーマ 決定	<p>■PFの構成団体のニーズを聞き取り、取組テーマとした</p> <ul style="list-style-type: none"><li>取組テーマは、支援団体のニーズに基づくべきと考え、支援団体向けのアンケートを実施し、交流や課題解決事業へのニーズが把握された。団体のニーズを聞き取るからには、ニーズに基づく取組を今後推進することが必要であるため、自治体として事業を継続的に続けるための法整備や努力義務化は重要。【京都市】</li></ul>
	<p>■中間支援団体と議論し、取組テーマを決定</p> <ul style="list-style-type: none"><li>重層において居場所づくりや地域づくりまで実施しているなかで、孤独・孤立についてはより予防的な活動を検討。官民連携においては両者がやりたいことの重なりを重視し、支援団体同士をつなぐ中間支援団体と議論し、「つなぎめ」サイトの活用やポッドキャストでの孤独・孤立対策のアイデアを得て実施することとした。【岡崎市】</li></ul>
	<p>■特定の分野に限定せず、全体を対象とすることとした</p> <ul style="list-style-type: none"><li>孤独・孤立は様々な課題が複合的に絡み合って問題化するため、特定の分野にテーマを絞ることは難しいと考えた。そこで、地域福祉計画のテーマでもあり、町の福祉政策の合言葉でもある「誰ひとり取り残されないまち」をテーマとした。【播磨町】</li><li>令和4年度のPF立ち上げから今まで変わらず、これまでの行政の事業でカバーできていない人や、従来の施策では支援の網から漏れてしまう人の全員を対象とするという考えの下で、地域の孤独・孤立を捉えている。【熊本市】</li></ul>
	<p>■参加主体に重複はあるものの、連携PFと重層との役割分担を整理</p> <ul style="list-style-type: none"><li>孤独・孤立に関する取り組みを「支援」と「予防」とに分け、「支援」に資する取り組みは重層事業で、「予防」に資する取り組みは孤独・孤立対策事業として実施する方針とした。「予防」として特に、庁内外での周知啓発は重層事業では十分ではないため、既存事業との重複を避けながら「支援」と「予防」の両面で、孤独・孤立対策を捉えている。【豊田市】</li></ul>
	<p>■試行的事業のメニューを先に決め、後からPFのテーマを議論するという順序で行った</p> <ul style="list-style-type: none"><li>孤独・孤立自体が新しく取り組むテーマであるため、まずは実態としてのデータを把握し、その上で政策を考えたく、実態調査を行うことは最初に決まった。【呉市】</li></ul>
	<p>■実態把握調査で課題意識の大きかったテーマに焦点を充てた</p> <ul style="list-style-type: none"><li>アンケート調査の結果、福岡市では、主に20代で孤独・孤立を感じている割合が全国と比較して大きいことが判明した。よって、担当課レベルとしては、取扱いテーマの1つとして、若者対策に着目し、検討を進める予定。【福岡市】</li><li>ヤングケアラーに関する実態調査を行った際に、自由記述欄に子どもたちの意見が多く寄せられたことから、子どもたちが自分で考え、自分の意見を持っていることに気が付いた。そこで、当事者の周囲にいる子どもたちに、ヤングケアラーの存在を伝えるという形の当事者支援を行うことを決めた。【中野区】</li></ul>
	<p>■過年度の類似事業でカバーできていなかった領域(食支援、居住支援)を孤独・孤立対策の一環でカバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>過年度の我が事・丸ごとや重層事業でカバーできていなかった食を通じたアウトリーチ支援について、令和4年度の孤独・孤立対策の開始とともに着手。令和6年度からは、食支援のエリア拡充と、従来より課題意識の大きかった居住支援を開始。【宇和島市】</li></ul>
	<p>■PFを「社会課題を可視化・共有化し、みんなで解決する場」とする</p> <ul style="list-style-type: none"><li>令和4年事業でPFの基本的な考え方を検討し、令和6年事業で社会課題解決の取り組み、ノウハウの共有、意見交換を行い、取組テーマを支援者たちの交流・連携を図るためのネットワーク構築と定めた。【市原市】</li></ul>
	<p>■アート事業のコンテンツを各市の意見を元に決定</p> <ul style="list-style-type: none"><li>福祉×アートを専門とするキュレーターに相談しながら、WSは支援者、当事者どちらにも有益であること、シンポジウムは昨年度行ったトークイベントの拡大版として、展示はWSの結果を用いて孤独・孤立を社会課題として普及・啓発することをそれぞれ目的にして実施。【座間市】</li></ul>
	<p>■地域に根差した複数のPFを構築するために、地域の課題に根差したテーマを設定</p> <ul style="list-style-type: none"><li>ニュータウンエリアは土地に根付いた文化や住民の地縁が少ないことや、既に居場所づくりに取組む活動団体が豊富にあったことから、「つながりづくり」をテーマに据え</li></ul>

た。【春日井市】

- ・ 孤独な子育て世帯が多い、就学援助利用者が多い等、その地域が共通して抱える課題をテーマとして設定することとし、各地域の課題を可視化するにあたっては、アセスメントシートを活用した。【春日井市】
- ・ 広域連携では、地域特性が異なるため、画一的な取り組みは適さない。PFは多様な主体が価値観を共有する場、テーマを持ち込みそれぞれの知恵やリソースを踏まえて議論ができる場とする。【鳥取市】**広域**
- ・ つながりサポーターの養成については、共通のキーワードとして地域横断的に取り組めるものとなった。【鳥取市】**広域**

④ -2	連携 PF の 企画・設計	体制	<p>■既存の合議体や体制をベースとすることで、重複感・負荷の軽減や一体的な情報共有が可能な体制の構築を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 地域包括ケア推進会議のマンネリ化を受けて、孤独・孤立というテーマ性のある部会を設置した。【中野区】</li><li>・ 重層事業とほぼ同一メンバーで一連の会議体を開催することで現場を踏まえた機動的な情報共有・支援提供・政策検討を実現するために、孤独・孤立対策会議と地域協議会、重層的支援会議を一体的に同日開催する形式で設計。【宇和島市】</li><li>・ 重層事業を含め様々な枠組みで既存の会議体が複数存在している中、PFを新たに設置し会員制をとると、豊田市では形骸化すると考えた。会員制は採用せず、市民が出入り自由で有機的につながるができる「空想ファクトリー」という場を、豊田市の開かれたPFとして位置付けた。【豊田市】</li><li>・ 形骸化している自殺防止対策PFを活用して孤独・孤立対策官民連携PFを立ち上げることとした。立ち上げにあたっては、自殺対策連絡協議会での審議を経た後に首長へ話を通すことで、協議会からのハレーションを抑えた。また、自殺防止対策PFを立ち上げた当初の担当職員へPF設立経緯や意義を確認することで、筋の通った拡充となるようにした。【播磨町】</li></ul> <p>■共通の地域特性をもつ地域単位でのPFの立ち上げを検討</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 農地が多いエリアや新興住宅地、高齢化が進んでいる地域や子育て世帯が多い地域等、地域によって課題や特徴が異なり、強みである地域資源も異なる。そのため、各地の実態やニーズに即したPFを展開できるよう、市で1つのPFではなく、共通の地域特性をもつ単位でPFを複数立ち上げ、最終的に市全域をカバーできる体制を構築する。【春日井市】</li></ul> <p>■特定の支援対象者像・住民属性に焦点を当てた団体で体制を組む</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 対象者やテーマについて、庁内部署との調整も試みたが、孤独・孤立PFの出口を何にするか(例:就労支援など)が難しく、時間をかけて協議した。結果、参加支援事業をベースに、ひきこもりやケアラーの支援の経験から、「社会とのつながりが希薄な人」を対象とする方向性で合意形成ができた。【呉市】</li></ul> <p>■中間支援団体などの関係団体に広く呼びかけ、PF会議を構成した</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 各種中間支援団体、孤独・孤立に関係する市の附属機関などに参画している団体などの関係会員や、PF趣旨に賛同する NPO 団体、民間事業者などのパートナー会員にも広く協力を呼びかけ、PF会議を構成した。【市原市】</li></ul> <p>■地域課題を整理し、新しいテーマへの拡大を図った</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ PFの立ち上げから3年目となる今年度は、「PFの拡大・強化」を大きなテーマに据えた。令和5年度に、火の国会議の参加団体でありPFのコア団体がWAM助成<sup>1</sup>を受けて実施した事業、「ひとりじゃないよのまちづくり事業」内の調査にて「こども」や「子育て」、「教育」の分野において、支援拡充の必要性が明らかになったことから、PFの拡大方針として、「こども」や「教育」の分野に広げることを選定した。【熊本市】</li></ul>
		活動内容	<p>■参加団体のニーズに合わせた活動を推進していく</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 第1回、第3回では、麒麟のまち圏域の市町職員や社協職員でのPF会合を開催した。第2回では、各地域で講師を呼んだ研修会やつながりサポーター養成研修を開催した。各地域のニーズに合わせた内容の研修を開催するだけでなく、各地で開催することで職員同士の交流ができた。【鳥取市】<b>広域</b></li><li>・ その都度支援団体のニーズに基づき、勉強会・交流会の開催や、課題解決型の事業検討等を推進していく予定。活動を検討するための話し合いの場をもうけることも検討中。孤独・孤立対策は広いため、特定の課題をテーマとして取り扱うことも検討。【京都市】</li></ul>

<sup>1</sup> 「独立行政法人福祉医療機構（WAM）が行う社会福祉振興助成事業（WAM助成）は、国庫補助金を財源とし、NPO やボランティア団体などが行う民間福祉活動を対象とした助成金制度」である。（出所：WAM HP）

#### ■支援団体同士のつながりづくりをメインの活動に位置付ける

- ・ 支援団体同士の交流ニーズに応えるためにも、継続的に使用できる「お悩みハンドブック」による支援団体同士のつながりづくりの検討および説明会を通じた支援団体同士の交流機会を設けた。【京都市】
- ・ ポッドキャストにより、市民への情報発信を行うとともに、実施後の交流会で支援団体同士のつながりづくりができるようにする。【岡崎市】
- ・ 支援団体や登録者のニーズを受けて、つながりサポーター同士、つながりサポーターと支援団体の交流の場としてつながりミーティングを企画【鳥取市】

#### ■居場所づくり、まちづくりを考える場とする

- ・ PFという場所を通じて、「つながりたい」と思ったときに人や団体とつながってもらおうことを目指す。今後もPFとしての会議体を設置することはせず、市民同士の勉強・交流の場である「空想ファクトリー」で市民が自由に集まって、地域をよりよくすることを考えてもらう仕掛けを継続する。【豊田市】

#### ■広報・情報提供・情報共有を主軸とした活動を実施し、支援情報を一元的に発信するなど支援情報や活動の可視化を進める

- ・ 「つながぎめ」のサイトをすでに運用しており、「つながぎめ」を起点として、支援団体同士の情報連携、支援団体の情報収集の場としていくこととした。【岡崎市】

⑤	関係団体のリストアップ・初期メンバーへの声掛け	検討方法	<b>■幅広い分野が関わることを前提に全庁など幅広く声掛けを実施</b> <ul style="list-style-type: none"><li>様々な社会課題が孤独・孤立に結びつくと考え、ひきこもりに関する相談・自殺対策等を行う健康推進課、青少年や若者の友人関係・非行等の相談を受ける若者・くらしの悩み相談課という福祉系の部署のみならず、まちづくり推進課にも声をかけた。つながりサポーター養成講座は、福祉部門のみならず、市の職員全体に声をかけ、理解を促進した。【福山市】</li><li>PFの参加者の属性を、①地域のつながりづくりに取り組む人、②実際に個別の支援活動を行っている人、③PFのコアメンバー(予防から支援までカバーし行政とも関係が深いメンバー)と幅広く捉え、これらの人々が関わり合うことが豊田市の孤独・孤立対策=「つながりづくり」につながると考えた。【豊田市】</li><li>孤独・孤立に関する研修を、全庁の部課長級及び、今後の孤独・孤立対策部会を担う全庁の若手職員に向けて行い、今後は全庁一体となって取り組む課題であることを周知した。実際に他部署と連携した取組が生まれたり、他部署からも様々な取組案が提案されたりと、部署横断的に連携する環境ができた。【播磨町】 職員や支援団体等からあがった意見をできる限り実現するよう柔軟に調整を行った。そのため、様々なアイデアが集まってくるようになり、担当課としてもアイデア発案係と調整係とで分担することができ、負担感も大きくなかった。【播磨町】</li></ul>
			<b>■支援対象・テーマを受けて、関係が深く対応機能を有する部署に声掛け</b> <ul style="list-style-type: none"><li>重層よりも枠組みが広いと、なんでも孤独・孤立と言ってしまうが、単なる人が集まるイベントにならないように庁内連携においては留意し声掛けをした。福祉分野以外でも多様性社会の実現を目指す部署等には声掛けをした。お互いの企画するイベントには参加するなど庁内でも関係性を構築している。【岡崎市】</li><li>令和4年度の時点では、庁内プロジェクトチームをベースとした庁内体制にとどまっていたところ、PFの拡大方針である「こども・教育分野の拡充」を目指し、庁内の関係部署にも順次声掛けしていく予定である。【熊本市】</li></ul>
			<b>■既存の会議体をベースに、不足する分野のメンバーに声掛け</b> <ul style="list-style-type: none"><li>中核となる会議体は、重層的支援体制整備事業における多機関協働のための既存の会議体をベースとし、不足する分野のメンバーを追加した。その際、会議開催を兼ねるなどして、負担増にならないように留意した。【市原市】</li></ul>
			<b>■孤独・孤立の入り口となる可能性のある関係課、窓口を持つ関係課への声掛け</b> <ul style="list-style-type: none"><li>庁内連携会議を開催し、講師を招いて孤独・孤立対策についての講話を行うことで、これから孤独・孤立対策に取り組むことを庁内で共有した。自殺予防対策ネットワーク会議に参加している部署と、孤独・孤立になり得る出来事と関連のある行政手続きを所管する部署に対して、孤独・孤立対策の必要性や市の取組の方向性等を周知した。【春日井市】</li></ul>
			<b>■法整備や努力義務化を後ろ盾に庁内連携を推進</b> <ul style="list-style-type: none"><li>法施行および努力義務化が決まり、庁内での理解が広まった。令和5年度に重層の検討をした担当者が孤独・孤立対策の担当に異動し、孤独・孤立対策と重層(令和6年度から本格実施)の棲み分けを検討した。【京都市】</li></ul>
巻き込み方法	<b>■トップが関わることでスムーズな連携を推進</b> <ul style="list-style-type: none"><li>関係部署が連名で担当課となることで、各課が自分事として考えて取り組むことができた。複数課が絡むため情報連携等にひと手間かかったが、統括が各課共通の部長であったため、合意形成や上長への調整がスムーズに進んだ。【播磨町】</li></ul>		
	<b>■理念的な庁内連携だけではなく、具体的な事業ベースで協働の働きかけを実施</b> <ul style="list-style-type: none"><li>庁内連携会議前に、会議の目的と、孤独・孤立と各課業務との関連性を説明することで、庁内関係課が主体的に会議に参加・発言してもらえるよう根回しをした。庁内連携会議後には今後の方針や実際の行動レベルまで認識を共有することで、確実に連携出来る体制を整えた。【春日井市】</li></ul>		

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">庁外の巻き込み</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">検討方法</p>	<p><b>■庁内の関係課に情報をインプットし、共通認識の醸成、共感を得た</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大きな自治体において庁内での理解促進のための情報整備は重要。定量的なデータと市民の声が必要と考え実態調査を実施。【京都市】</li> </ul>
		<p><b>■日常的なコミュニケーション、相互に協力する関係性を構築している</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報連携や合意形成等の際は、直接会って話をした。顔の見える関係性を構築することで、意見のすり合わせを行いやすくなった。【播磨町】</li> </ul>
		<p><b>■「お悩みハンドブック」を通じて、庁内に存在する関連支援制度の洗い出しと所管部署との関係構築を実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>試行的事業として「お悩みハンドブック」の開設を進める過程で、庁内における孤独・孤立対策に関連する支援制度の洗い出し調査を行った。これにより、上述の若者対策に加え、その他連携し得る部局の整理を行った。【福岡市】</li> </ul>
		<p><b>■過年度事業を通じて、庁内巻き込みのために座談会などを開催</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福祉の周辺領域である子育てや防災の所管部署との連携を構築している。他部の巻き込みのために担当者が職員向けの座学会を開催した。【宇和島市】</li> </ul>
		<p><b>■広域でのPFの構築にむけては段階を踏んで広域で取り組む合意形成を図った</b></p> <p><b>（広域）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広域連携を推進する上では、麒麟のまち圏域で実施する方法として、各市町において、担当する福祉部局で合意形成⇒企画課で合意形成⇒首長レベルで合意形成⇒担当部局で連携を進めるという手順を進めた。孤独・孤立は地域特性に関わらず共通の課題としてとらえることができた。段階を踏んで、情報の事前提供と対面での対話を重視し合意形成を図った。【鳥取市】</li> </ul>
		<p><b>■庁内の各部署と過去に連携経験・信頼関係があることを重視して検討、日ごろ関係する団体には随時情報をインプットする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ベースとして、子ども、高齢者、障がい、生活困窮、自殺、居住支援、男女共同参画等のそれぞれの福祉分野に関わりのある団体に声掛けを実施した。既存のつながりで民間の団体等にも声掛けをした。【京都市】</li> <li>行政からも各担当課にHPの「つながり」に登録すべき団体を募集し、各課つながりのある機関を整理した。【岡崎市】</li> <li>全庁に孤独・孤立問題についての研修を実施した際に、研修実施後アンケートにて、PFに入ってほしい団体の調査を行った。その結果、各担当部署のコネクションや知見を活かしたリストアップができた。また、名前があがった団体すべてに声掛けを実施した。【播磨町】</li> </ul>
		<p><b>■「地域のために何かしたい」と感じている活動者や市民を、今後も積極的に孤独・孤立対策に巻き込んでいく</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>PFという場所を通じて、「つながりたい」と思ったときに人や団体とつながってもらうことを目指す。今後もPFとしての会議体を設置することはせず、市民同士の勉強・交流の場である「空想ファクトリー」で市民が自由に集まって、地域をよりよくすることを考えてもらう仕掛けを継続する。【豊田市】</li> </ul>
		<p><b>■キーパーソンを活用し、紹介をベースとした巻き込みを実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>HP「つながり」に登録した団体をメンバーとしてPFを立ち上げた。登録団体の拡大については、中間支援団体の営業活動で拡大している。【岡崎市】</li> <li>地域の様々な活動者と接点を有している第2層生活支援コーディネーターに一任した。依頼するにあたっては、従来の高齢者PFと差別化することや、PFのテーマである「つながりづくり」と自らの地域活動に親和性を感じるメンバーとしたいことを伝えた。【春日井市】</li> <li>普段から行政と関わりが深い民間団体の中でも、特に福祉サービス以外の領域に取り組んでいる団体がキーマンであり、多様な市民活動を通して「行政では手が届きにくい領域」を推進する民間団体をPFのコアメンバーととらえている。【豊田市】</li> <li>もともと中野区とのつながりがある大学教授からの紹介を受けたり、中野区が参加したセミナーの参加企業への声掛けをするといった能動的な活動をしたり、様々なきっかけを通じて、新たな民間企業とつながっている。【中野区】</li> </ul>
		<p><b>■既存の会議体を活用し、声掛けを実施</b></p>

- ・ 火の国会議でコアな役割を果たしている4団体(KVOAD、でんでん虫の会、minority、バルビー)に行政から声掛けし、4団体をPFのコアメンバーとしてPFを立ち上げた。【熊本市】

#### ■リソース調査を活用し、声がかかる団体を把握など、調査や情報発信をきっかけとした声

- ・ 令和6年度11月に実施した支援団体向けアンケート(=リソース調査)の結果を基に、18団体に声掛けし、新たに16団体がPFに参加した。(結果の詳細については、試行的事業の詳細ページを参照。)【熊本市】
- ・ 昨年度本事業の勉強会に参加された団体が今年度のリソース調査の回答者にもなっており、2年継続したことによってネットワークが強化された。【座間市】
- ・ リソース調査の結果を受けて、PF構築に前向きな団体と組むことを想定している。【座間市】

#### ■講座・勉強会の開催によって、参加者を中心に関係者を拡大

- ・ 初期は、保健福祉部の関係5課がそれぞれ担当する外部機関の巻き込みを進めた。巻き込みのためには、定期的に多様なテーマで勉強会を開催しており、幅広く外部組織へ声をかけている。【宇和島市】
- ・ つながりサポーター養成研修が1つのツールとなり、研修を受講しに来る人がいるだけでなく、企業や団体から出前講座の依頼があるため、研修を開催し、つながりサポーターへの登録を促している。【鳥取市】

#### ■具体的な連携スキームとして、包括連携協定と共同事業等の枠組みを用意

- ・ 連携スキームとして、包括連携協定と共同事業を用意している。企業側の要望に応じて使い分けをしている。【宇和島市】

#### ■連携PFを表立った形とすることで参画したいという要望を受け団体数が徐々に拡大

- ・ 地域連携協定として公にすることで支援団体側から連絡があり入ってもらったケースもある。設立当初の120団体から7団体増えて127団体になっている。【京都市】

#### ■“誰から声掛けをするか”、“どのような順番で声掛けするか”も相手がスムーズに受け入れられるようにアレンジしていく

- ・ 地域食堂等の活動団体には普段からコミュニケーションをとっている生活支援コーディネーターから声掛けを実施し、スムーズに話ができるようにした。施設や企業等には公的機関としての安心感がある市地域共生推進課から声掛けを行った。【春日井市】

(ウ)設立段階

⑥ 域内住民・  
団体への  
情報発信

広  
報  
活  
動

■メディア MIX での広報で集中的に広報を実施

- ・ つながりサポーターの認知度向上のため、複数の媒体によるメディア MIX での広報活動を実施。広報実施後のアンケートではつながりサポーターの認知度は41%となった。新聞折込やTVCMの効果が高い可能性が示唆された。サインージ等については反響が少なかった。【鳥取市】
- ・ 令和5年度に独自に実施した TVCM の放送や、PF団体の協力を得て実施したイベント等によって、「孤独・孤立」という問題そのものや、熊本市にPFという体制が存在していることを対外発信した。【熊本市】
- ・ 様々な手法(WS、シンポジウム、展示)でアート事業を展開したため、市民の目に触れる機会が増えた。また、美術手帖等へも掲載していただいた。支援者にとっては、相談者との関係性など、日頃の相談業務を見直すきっかけにもなった。【座間市】

■紙媒体の配布方法では、広報紙での大規模配布や孤独・孤立の入り口になりうるタイミングでアプローチするなど、配布方法、伝達方法を工夫

- ・ 相談窓口を掲載したリーフレットを、病院や理美容院、スーパー等の生活動線上で配布することで、公的機関に訪問しない市民に対しても日常の中で相談窓口を知ってもらうようにした。【春日井市】
- ・ 昨年度PFの活動の中で生まれた「ぷらっとノート」をはじめとした、つながりづくりの活動紹介を掲載するマップ「ゆるやかなつながりづくり応援マップ」を作製した。「ぷらっとノート」について周知するだけでなく、設置している活動団体の紹介文や顔写真を掲載して、各団体に親近感をもってもらうよう工夫することで、各活動に関心をもってもらい、気軽に訪問できるようにし、スーパーや飲食店で配布した。【春日井市】
- ・ 孤独・孤立が身近な問題であり、その対策として町が取り組んでいることや相談窓口が設置されていることを周知するため、チラシを作成して配布した。確実に町民に届くよう、自治会経由で全戸配布を行った。【播磨町】

■内容を読みたくなる構成や、相談しやすいメッセージ、受け取りたくなるシールなど配布物の内容を工夫

- ・ デザインが得意な団体に依頼し共通デザインを制作。活動に一体感を出すとともに、「見たことがある」と印象付けることができた。【岡崎市】
- ・ 町内にある居場所を周知するマップと動画を作成した。マップには、居場所の写真やメッセージを掲載したり、動画には活気のある様子や利用者のインタビューを掲載したりと、居場所のあたたかさを伝え、町民がより気軽に居場所を訪れることができるようにした。【播磨町】

■いつでもだれでも気軽にアクセスできるポッドキャストを活用

- ・ 共感を生むことでつながりを感じることができるツールとしてポッドキャストにより、市民への情報発信を行う。ポッドキャストはアプリでいつでも誰でも聞けるように公開し、アーカイブを残している。【岡崎市】

■中野区を拠点とするアニメ制作会社と協力し、ヤングケアラ―当事者の周囲の子供たちに向けた、啓発アニメを制作

- ・ 中野区シティプロモーション課からの紹介で、中野区に拠点を移したばかりのMAPPA とつながることができた。予算の問題があり、アニメ制作実現が難しく思われたときもあったが、MAPPA 大塚社長やコントロール関根さんの社会貢献を行いたいという思いの上で、実現することができた。【中野区】

■広報物を作る段階でも、大学生を巻き込むことで周知啓発を実施

- ・ 対策推進のイメージづくりを通じて大学と連携、大学生への周知啓発を実施。孤独・孤立対策のステッカーを制作しPF参画団体とともに配布した。【京都市】

■民間デザイン力が活かされた HP を共同運用する形で情報発信を実施

- ・ 課題意識のあった情報発信については、わかりやすい情報発信をしている「つながり」を見つけ、コネクトスポットに声掛けをし、共同運営を開始。【岡崎市】

■孤独・孤立対策に関する若者の活動を紹介するフォーラムを開催した

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ フォーラムでは、テーマである「若者の孤独」を前面に押し出すのではなく、若い世代の支援者を多く巻き込んだパネルディスカッションを設計した。支援の対象は若者、女性、高齢者など様々だが、若者が取り組む孤独・孤立対策の活動を知ってもらう場になった。【中野区】</li> </ul> <p>■「楽しく自然に知ってもらう」というカードゲームを活用した新しい広報を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 孤独・孤立という概念を知らないという人にも知ってもらい、自分や周りの人の困りごとに日常で目を向けてもらうために、「孤独・孤立対策」という言葉を使わずに、「楽しく自然に知ってもらう」ことを重視した。その手段の一つとして、カードゲームで当事者体験をしてもらうことを企画した。実際に自分や周りの人が孤独・孤立になった時に思い起こしてもらえるよう、「つながりの大切さ」や相談できる人や場所が地域にあることを、ゲーム中で印象付ける工夫を行った。【豊田市】</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">イベントの開催</p>	<p>■新しいツールの説明会を開催し、その場で支援団体同士のつながりづくりを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ お悩みハンドブックの活用方法の説明会を契機として、支援団体の集まる場を設けて、お悩みハンドブックの活用や支援団体同士のつながりづくりについてディスカッションを実施。【京都市】</li> </ul>
	<p>■開催場所の工夫により、誰でも立ち寄れる居場所をつくるイベントを定期開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ まちなかで、ポッドキャストの公開収録と交流会を2週間に1回の開催。共感を生むことでつながりを感じることができるツールとしてポッドキャストでの情報発信、居場所づくりを継続する。【岡崎市】</li> </ul>
	<p>■市民向けのおまつりイベントを開催し、市民への周知啓発、つながりづくりを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域食堂による弁当販売や福祉事業所の作品販売等を行い、市民の居場所や交流活動について近隣住民に広く周知を行った。子どもからお年寄りまで約1,000人の市民に会場してもらい、来場者同士や出展者同士、さらには来場者と出展者が出会い、ゆるくつながり交流できる場とした。【春日井市】</li> </ul>
	<p>■地域住民の経験談や当事者の声をベースに普及・啓発活動を実施した</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当事者の声を広く届けるべく、ケアラーやひきこもりの家族、LGBTQの方にインタビューし、それをまとめたエッセイを展示するパネル展を企画した。【呉市】</li> </ul>
	<p>■シンポジウムや講習会の開催により、孤独・孤立の取組を市民向けに周知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 孤独・孤立は誰にも起こりうる身近な問題であり、それを予防するためにつながりづくり活動が全国や市内で行われていることを周知するために、「身近でゆる〜いつながり」をテーマにした有識者による基調講演や、市内で居場所やつながりづくり活動を行う支援者によるパネルディスカッションを行った。【春日井市】</li> <li>・ 孤独・孤立対策については、シンポジウム、フォーラム、研修会など、オンライン・オフラインを問わず複数のイベントを開催し、啓発活動を行った。【市原市】</li> </ul>

■自治体は主に会合の開催を担い、参加者の課題の把握、ニーズのある活動を把握し、推進する

- ・ その都度支援団体のニーズに基づき、勉強会・交流会の開催や、課題解決型の事業検討等を推進していく予定。活動を検討するための話し合いの場をもうけることも検討中。孤独・孤立対策は広いため、特定の課題をテーマとして取り扱うことも検討。【京都市】
- ・ 防災等、町民全員が関わり、かつ福祉に限らないテーマを軸に据え、インプットを行いつつ、グループワークを通じて提案をする等のアウトプットも行う。また、出てきた提案は担当部署につないで実現に向けて調整する運営を検討している。【播磨町】
- ・ つながりサポーター同士やつながりサポーターと相談支援機関がつながる必要があるといった意見を踏まえて、つながりミーティングを開催した。【鳥取市】

■PFの「要領」を作成するなどして、PFとして目的意識や連携する意義について共通認識を醸成

- ・ PFの運営は、PF参加団体になるべく負担をかけない形で行われるべきであり、活動の持続可能性を高めるために重要である。一方、組織として「ゆるやか」すぎると活動の実行性が損なわれる。PFの役割や備えるべき機能、参加する団体が実施すべきこと等の基本事項をまとめた、PFの「要領」を今年度作成し、令和6年度PF会議にて周知した。【熊本市】

■当初は自治体が主導し、他地域への横展開にむけたノウハウの獲得等を実施

- ・ 初年度(令和5年度)は、企画は市地域共生推進課、運営は市地域共生推進課と第2層生活支援コーディネーターが共同で行ったが、2年目(令和6年度)は、企画段階から市地域共生推進課と第2層生活支援コーディネーターが共同で実施し、運営は第2層生活支援コーディネーターを中心としつつ市地域共生推進課も共同で実施する。【春日井市】

■2層構成のPFを運営しながら、支援団体同士のつながりを促進する

- ・ 核となる団体と、ゆるく連携する団体の2層構成を予定している。利用者が固定されている、支援メニューが限定されている、という支援団体同士の課題を、支援団体同士が連携することで解決するようなPFとしたい。【呉市】

■会議体ではない形として、ホームページ上での情報連携と交流の場づくりを実施

- ・ 「つなぎめ」のサイト上での情報連携や支援団体同士が情報を知り合える場として活用を促していく。ポッドキャストの公開収録と交流会を2週間に1回の開催し、共感を生むことでつながりを感じることができるツールとしてポッドキャストでの情報発信、居場所づくりを継続する。【岡崎市】

■PF内外の関係者がテーマ設定から課題解決まで行う作業部会の開催を行う

- ・ PF立ち上げを記念するフォーラム(11月)、試行版の作業部会(1月)を実施し、PFテーマの具体化に踏み出した。作業部会の試行結果を基に、PFでテーマ設定から課題解決まで行えるような運営方法を検討する。【市原市】

■リソース調査においてPF構築に前向きな団体へ声掛けしながら、県と連携 (広域)

- ・ かながわつながりネットワークのメンバー(神奈川県版孤独・孤立対策官民連携PF)の会議に座間市も出席しているが、当該メンバーは横浜市・川崎市の団体が多く、ここに本事業で行ったリソース調査にて、PF構築に前向きな団体を推薦することを考えられる。県からも情報を共有いただきながら進めていきたい。【座間市】

■広域連携では、各地のニーズに合わせて、各地で開催することも重要 (広域)

- ・ 第1回、第3回では、麒麟のまち圏域の市町職員や社協職員でのPF会合を開催した。第2回では、各地域で講師を呼んだ研修会やつながりサポーター養成研修を開催した。各地域のニーズに合わせた内容の研修を開催するだけでなく、各地で開催することで職員同士の交流ができた。【鳥取市】

(工) 自走段階

⑧

地域協議会の設置

■ 複数分野に跨ったケース等、個別協議会から零れ落ちるケースの受け皿として位置付け、「誰ひとり取り残されないまち」を実現する

- ・ 受け付けた相談は総合相談窓口が司令塔となって、担当の個別協議会にてケースごとに協議を行う。一方、複数分野に跨ったケースや適切な個別協議会がないケース等、個別協議会のサポートから零れ落ちるケースは地域協議会につなぐことで、すべてのケースを支援できる体制とする。【播磨町】

■ 相談支援包括化推進会議において地域協議会の役割を担う

- ・ 鳥取市では、相談支援包括化推進会議において、対象者への個別支援を推進する。相談支援包括化推進会議では必要な機関が守秘義務をもって情報共有を行うことができる。PFから支援に必要なノウハウやリソースを提供する。【鳥取市】

■ 地域協議会を「知見交換の場」と位置づける。さらに「作業部会」を設け、個別ケースの対応方針を協議・決定する場を機能させていく予定

- ・ 地域協議会は令和7年度に設置予定であり、専門家も交えて、複雑なケースに関する連携支援・緊急対応のための知見を共有する場とする。【熊本市】
- ・ 一方、熊本市では地域協議会の中に、さらに「作業部会」を設ける。「作業部会」では、PFコアメンバーと関係機関・団体がケースごとに入れ替わり、個人情報扱いながら個別ケースに関する具体的な対応方針を決定する場として機能させる予定である。【熊本市】

■ 重層的支援体制整備における支援会議が地域協議会の役割を担う

- ・ 重層的支援体制事業の相談機関連絡会を基に、消費生活や自殺対策など必要だと考えた団体に個別の声掛けを行い、孤独・孤立対策地域協議会を設置した。【市原市】
- ・ 重層事業、孤独・孤立対策会議とほぼ同一メンバーで一連の会議体を開催することで現場を踏まえた機動的な情報共有・支援提供・政策検討を実現するため、一体的に同日開催する形式で地域協議会を設置。【宇和島市】
- ・ 重層と棲み分けることで新たな縦割りを生むことを懸念し、包括化することも検討したが、現在は、14区・支所やその中の圏域、学区域で連携し、地域に根差して支援をする重層と、市域全体での多くの活動者のつながりをつくる孤独・孤立対策が重なって活用しあう体制を検討中。【京都市】
- ・ 重層的支援体制整備事業における重層的支援会議が協議会の役割を担う。そのため孤独・孤立対策は予防的な観点、潜在層の掘り起こしを担い、支援が必要な対象者をPFメンバーで支援するとともに、必要に応じて、重層的支援会議につなぐ機能を担う。【岡崎市】
- ・ 重層的支援体制整備事業の実施に伴い設置した、社会福祉法第106条の6に基づく支援会議の枠組みを活用し、地域協議会を兼ねる。【春日井市】
- ・ よりそい支援課を含め、庁内の関係課や支援活動を行う民間団体が多数参加する「支援会議定例会」にて、今後も孤独・孤立を1つの議題として扱い、問題意識を共有していく。これを通じて、地域協議会としての役割を果たしていく予定である。【豊田市】

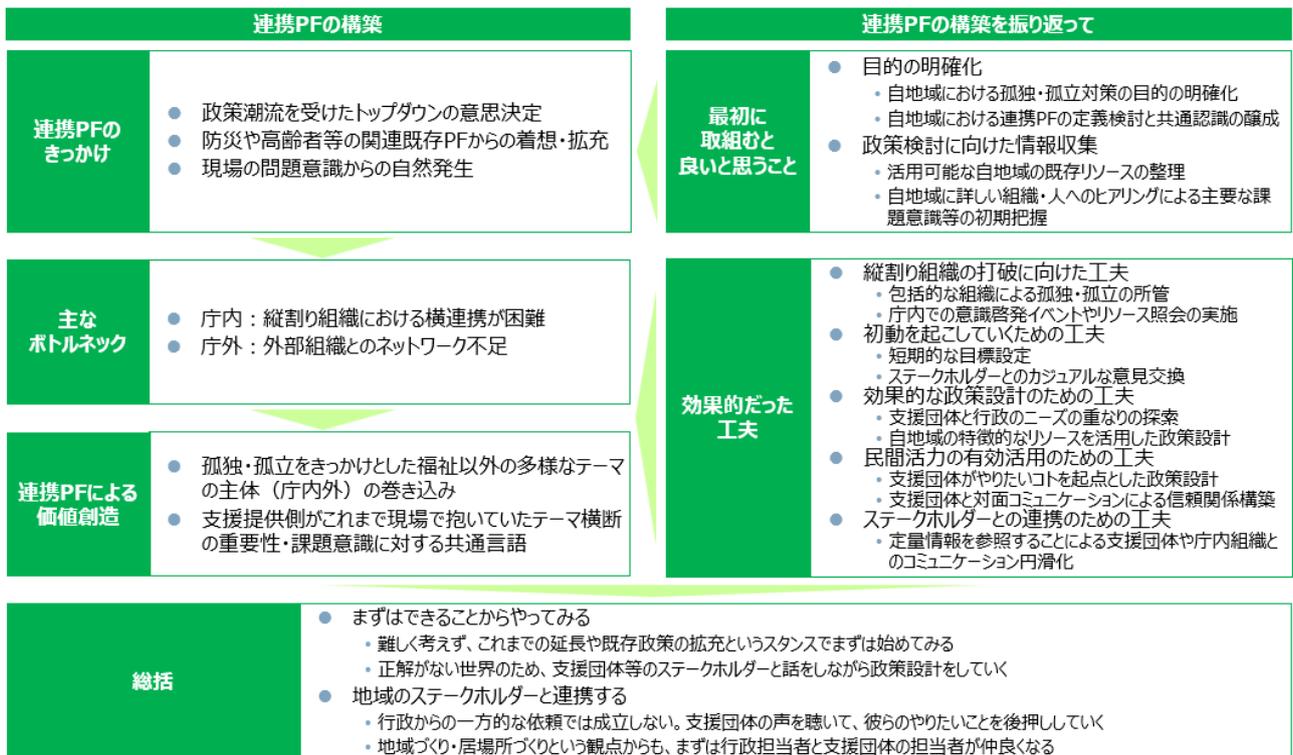
⑨ PFの拡大・活性化	<p><b>■持続可能性を考えた、今後のPFの運営主体の検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>令和7年度をめぐりPFの包括化として、PFに多様な主体が参加し、様々なテーマを持ち込めるようにする体制を整備する。【鳥取市】</li><li>令和7年度にPFを継続的に運営できる体制を確保するために、PFの法人化を検討し、令和8年度の法人化を目指す。【鳥取市】</li></ul>
	<p><b>■関係者の継続的な巻き込み、拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>既存PF(例:子ども・若者支援地域協議会)と、孤独・孤立PF設立に向けて声をかけたい団体がかぶっているため、既存PFと適宜連携していきたい。金融機関、郵便局など、見守り機能を担っている福祉分野以外の団体に拡大したい。【福山市】</li><li>PFの参画団体については、孤独・孤立対策では特に民間の団体や、草の根で活動している団体に広げていくことを目指す。【京都市】</li><li>つながっている支援団体数は地域内では網羅的になってきたが、今後も少しずつ拡大予定。【岡崎市】</li><li>PFに参画してほしい団体には、事務局から案内メールを送付し、参画を希望しない団体のみ返事をもらう形式とする。また、新規でPFに参画したい団体は、申し込み手続きでPFに参画することができる。参画団体は連絡先リストの形で把握し、PFの案内等はそのリストの連絡先へ行う。【播磨町】</li></ul>
	<p><b>■連携PFの支援団体との連携強化、形骸化防止</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>今後は今つながっている支援団体とのつながりを強化することが課題。緩やかだが、弱くて忘れられるようなつながりではいけないため、「つなぎめ」の情報を伝えるツールとしても活用することで利用を促進し、行政が中間支援団体とともに支援団体を訪問するなど積極的に活性化を図る。【岡崎市】</li><li>既述の通り、PFの立ち上げ以降も、地域の課題等についてその時の状況に応じて調査・整理を進めており、それらのファクトをもとに今後もPFを活性化させていく予定である。今後PFが大きく拡大したとしても形骸化することのないよう、PFコアメンバー+参加団体+行政という各々の属性に応じた一定程度の役割意識や、PFとしてつながることの目的意識を共有しながら、引き続き運営していく予定である。【熊本市】</li></ul>
	<p><b>■域内全体での取り組みの活性化にむけて、市民の巻き込み・周知を推進する</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>市民ひとりひとりが地域社会のあり方を考え直す機会となるように、生活史の調査も継続し、実態を地域で可視化することも検討していく。【岡崎市】</li><li>今後もPFの参画者に、普段実施している活動を孤独・孤立対策に結び付けながら推進してもらうことで、地域で活動する人が当たり前のように日常的に孤独・孤立対策に取り組んでいる状態を目指していく。来年度以降は、孤独・孤立の「予備軍」の人に対する支援や予防を目的に、相談窓口に来られない人にも支援が届くような仕組みを進めたいと考えている。例えば、今年度試験的行ったメタバース空間での交流イベントを、定期的を実施することを検討している。【豊田市】</li></ul>
	<p><b>■スポーツ、教育など福祉以外のテーマを取り入れたPF構築・拡大を目指す</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>広報活動にも注力して拡大していきたい。具体的には、スポーツ関連の団体、教育機関などとの参加支援事業での連携を実績として、福祉以外をテーマとして活動する団体も加入したくなるようなPFにしていきたい。将来的には、個人で活動しているような方も含めたい。(呉市)</li></ul>
	<p><b>■当事者の生活圏を考慮した連携ができるPFの構築を目指す (広域)</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>現場担当者の意見も聞いて今後について設計したい。その際、市で区切るのではなく、生活圏での連携が重要だと考えている。神奈川県は政令市が3市+他市町村という構成であるため、県としてひとまとめに考えづらい。一般市が動くことで県にもよい影響を及ぼすことができるとよいと考える。【座間市】</li></ul>
	<p><b>■地区別のPFを水平展開していく</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>高齢分野の日常生活圏域ごとではなく、日々の生活様式に基づいて地域を拡大していく。移動範囲や普段使用する施設、生活様式が同じで、よって抱える地域課題も類似していると想定される周辺地域へPFを拡大した。【春日井市】</li><li>アセスメントシートをもとに、共通の地域特性を持つ地域単位でPFを水平展開していく。アセスメントシートにより各地域の強みや特徴、地域課題を可視化するこ</li></ul>

とで、どの地域をどう纏めて、あるいは分けて、どのようなテーマで、誰を巻き込んでPFを立ち上げるか等の検討を行い、PFを市内に水平展開していく。【春日井市】

### 3-2. はじめて取り組む際のポイント

モデル事業においては、様々な工夫を凝らした事業が実施され多くの自治体のモデルとなる事例が作られた。一方で、これから取り組む自治体、特に担当者においては、初動として何から始めればよいか迷う可能性がある。それらの担当者の参考となるように、今回のモデル事業の自治体においても試行的事業には表れない初動対応として自治体担当者がどのような対応をしてきたのかをインタビューする形で整理した。全体として得られた示唆を以下の通り整理した。

図表 各自治体における試行的事業の整理マップ



より具体的な生声として、担当者のコメントを以下に整理した。

1) 取組当初の思い		
①	トップダウンの意思決定	<p>■モデル事業や法施行、努力義務化がきっかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 首長のリードの下孤独・孤立対策を推進することとなった。</li> <li>・ 孤立死等が自治体においても重要な政策テーマとなっており、孤独・孤立対策を推進していくこととなった。</li> </ul>
②	既存の取組との関連性への気づき	<p>■防災等の関連の取組からの着想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 被災者支援が孤独・孤立対策に通じていることに気づき、被災者支援の地域関係者が集まる会議を PF として活用しつつ孤独・孤立対策を推進することとなった。</li> <li>・ 別途進めているアウトリーチ型相談支援の体制整備の推進にも資する取り組みだと思った。</li> </ul>
③	現場の問題意識から自然発生	<p>■地域において問題意識に基づき自然発生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者対策を推進していた PF において、人口が減っている地域づくりにおいては、テーマを絞らずつながりづくりを進める必要性があり、自然的に孤独・孤立対策の PF につながる取り組みができてきた。</li> <li>・ 既存の住民が集まってまちづくりを検討する場が地域にあった孤独・孤立対策なのではないかと気づいた。</li> </ul>
2) 取組当初の思い		
④	孤独・孤立の理解	<p>■孤独・孤立とは何か考えた</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定義が広く、つかみどころがない。なんでもありのイベント開催事業になってしまうようにしたいと思った。</li> </ul>
⑤	重層との区別	<p>■重層との縦割りにならないかを懸念した</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重層事業と重なる部分が多いため、それぞれを推進することでまた新たな縦割りを生まないかを懸念した。</li> </ul>
3) 最初に取り組んだこと、取り組むとよいと思うこと		
⑥	庁内の意識合わせ	<p>■孤独・孤立の定義について庁内で話し合った</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当や今までの経験によって孤独・孤立でイメージするものが様々だった。PFの団体や市民とも共有できる共通の定義について庁内で話し合った。</li> </ul> <p>■PFの認識を庁内で共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ PFという会議体をイメージしやすいが、目的を達成するための手段であり、会議体を設置するものではないという前提を庁内で確認した。</li> </ul>
⑦	地域をしる	<p>■見通しを立てるためには地域を知る必要がある</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取り組む際にある程度見通しがないと不安になるが、見通しを立てるには地域を知っている経験値が必要になる。庁内リソースを活用して、この地域課題や特性についてアセスメントを作成した。</li> </ul> <p>■庁内で合意を得るためには、定量的な情報と市民の声が必要と考えた</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 庁内での合意形成を図るためにも定量的な情報と市民の声が必要と考え、実態調査を行った。</li> </ul>
⑧	支援団体と会う	<p>■いつもは接点のない支援団体と会ってみる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 孤独・孤立対策を始めることをきっかけに訪問できた。支援団体に会って話す地域の課題や活動内容、思いを聞き取る中で方針が見えてきた。</li> </ul> <p>■支援団体のニーズを聞き取る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援団体のニーズを把握するためにリソース調査を実施した。PFを活用してやりたいことについても提案をもらうことができた。</li> <li>・ 支援団体にニーズの聞き取りを実施した。</li> </ul>
⑨	庁内の活動の整理	<p>■庁内の活動を振り返ることで活用できるリソースがみつかった</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 庁内の活動であっても形骸化した会議体などは知らないことがあるため、孤独・孤立対策に取り組むことをきっかけに再整理をすることで活用できるリソースが庁内にあった。</li> <li>・ 庁内の情報を整理したうえで孤独・孤立対策に取り組むことで、複数事業で孤独・孤立対策の取組を通じて成果を得ることができた。</li> </ul>

4) 取り組んだ工夫・やってよかったこと		
⑩	情報連携の工夫	<p>■ <b>会って話す、その前に情報をインプットする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相手を訪問して会って話すことは重要。支援団体としても自分たちの活動を知ってもらえること、見てもらえることはとてもうれしい。</li> <li>・ 会って話すときに突然PFなどの新しいことを提起すると、理解できなかったり、拒絶反応を示すこともあるため、事前に会えるタイミングで資料を渡しておくなど段階を踏むようにした。</li> </ul> <p>■ <b>短期的な目標設定、共通の課題設定が必要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共感できる地域課題、短期的な目標設定があるとよい。</li> </ul>
⑪	参画団体の選定の工夫	<p>■ <b>参画する団体に意欲や実績を求める必要はない</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 孤独・孤立対策やPF、支援団体とのつながりに対して実績も意欲もなくても、参画してから関わる中でできること、やりたいことを見つけてもらえるかもしれないため、実績も意欲も問わないで、名前を知っている団体や参画団体の知り合いに入ってもらえばよいと考えている。</li> </ul>
4) これから取り組む自治体へのアドバイス		
⑫	初めてやることだと思わない	<p>■ <b>0からスタートではなく3からスタート</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 孤独・孤立対策を始める際に新しいことに取り組むという意識ではなく、今まで抱えてきた課題を解決するために、孤独・孤立対策、PFが活用するという意識で考えた方がよい。</li> </ul>